

# Research Fair 2016要旨集



## 「知の祝祭」リサーチ・フェア2016に寄せて

リサーチ・フェア2016へようこそ

関西学院大学総合政策学部の「リサーチ・フェア」は、今年で19回目を迎えます。「リサーチ・フェア」は、ここに集う一人一人が、日ごろの研究成果を発表し、研究を通じて相互に交流し合う「知のお祭り」です。総合政策学部は、ここに来られたすべての方々を歓迎するとともに、互いの知的好奇心を刺激し合う場にしていただきたいと思います。

この総合政策学部の「リサーチ・フェア」には、大学生だけではなく、高校生の発表も行われています。これまでの高校教育といえば、教える側の教員が何を学ぶべきかを決め、生徒は学ぶ側として、教員の提供する知識を受容し、与えられた問題に素早く正確に答えを出すことが求められていました。しかし、現在、多くの高校で、生徒自身が研究テーマを設定し、自分たちで問題を発見し、その答えを自ら探求するというスタイルが広まりつつあります。これは、まさしく、「リサーチ・フェア」の流儀です。

自分たちの研究の成果を、人前で発表するのには勇気が要ります。しかし、他者の目を通して、初めて今まで気づかなかった問題や論点が始めて見えてきます。この「リサーチ・フェア」が世代を超えた活発な知的交流の場となることを期待しています。

総合政策学部長 細見和志

**開催：11月18日(金)、19日(土)**



主催：関西学院大学総合政策学部  
実施：リサーチ・フェア実行委員会

# — 目次 —

1	リサーチ・フェアの紹介	-----	1
2	プログラム	-----	2
3	会場図	-----	4
4	1日目要旨	-----	5
	◆EC Presentation	-----	5
	◆口頭発表	-----	6
	◆ポスター発表	-----	16
	◆自由形式	-----	21
5	2日目要旨	-----	22
	◆口頭発表	-----	22
	◆総合政策学部同窓会企画アポなしOBOG訪問	-----	27
6	授賞式・懇親会	-----	31



(写真は過年度)

## リサーチ・フェアの紹介

リサーチ・フェアは、総合政策学部から初めての卒業生を送り出そうという1998年秋に、「卒業生の研究発表の場を設けたい」という故安保則夫先生からの提案で始まりました。なお、安保先生は創設時からこの学部の運営の中心で、初代の学部長の天野明弘先生を支えられた後、第2代学部長を務められましたが、学部長ご退任直後に急逝されました。

安保先生は最初、「ゼミ単位の発表を」とお考えでした。しかし、他の先生方から「うちのゼミではみんな違うことをしている」「どうせやるなら、個人で発表を」という意見が強く、「理系では当たり前のポスター発表や自由形式も採用すればなんとかなる」とりあえず始まりました。それから、様々な試みを経て、今年で19回を数えます。

その経緯を踏まえて、学生の皆さんにお伝えしたいのは以下の2点です。まず、リサーチ・フェアは教職員と学生のコラボレーションで始まりました。とくに、このイベントを始めた1期生の方々、彼ら／彼女らは“総合政策”というまったく新しい学部を手作りで作り上げていった人たちでしたが、リサーチ・フェアもまたその一つでした。しかし、そろそろ20回にも近づいた昨今、今や、リサーチ・フェアも「当たり前」の世界になってしまい、学生の皆さんからさらなるイノベーションを図ろうとする意欲がやや薄れてきた雰囲気を感じないわけではありません。そのあたり、皆さんの自発的な活動を強く望む次第です。関心がある方は、是非、リサーチ・フェア実行委員会に学生委員としてご参加いただければと思います。

もう一つは、このリサーチ・フェアが様々なネットワークの一つの要(かなめ)になっていることです。例えば、1～2年生は上級生の発表を参考に学科、ゼミを選択する。3～4年生はリサーチとプレゼンテーションの方法を実践して、卒業論文や卒業後の仕事に活かす。さらに卒業生の方々はこの日、キャンパスに戻って後輩(=皆さん)に自らの仕事を語り、皆さんは先輩の話から自らの進むべき道を選んでいく。ここ数年、高校からの発表者や見学者も増えました。そこに高校、大学、そして社会のつながりを見出す。それが大学が持つ本来の使命の一つ、リベラル・アーツ(教養)の一つの姿だと思えます。

さらに付け加えれば、学生の皆さんに今、本当に望みたいのは“聴く”ことかもしれません。リサーチ・フェアでもプレゼンテーションが中心となり、いきおい、みんな自分の表現に集中する。しかし、(卒業後の社会がまさにそうですが)、みんな一年中“プレゼン”しているわけではありません。

むしろ、相手の話を“聴く”、しかも相手の“真意”を感じ取る、そして議論を重ねて、それまで相手も自分も気づかなかった“新しい世界”に気づく。これがソクラテス以来の対話型ディスカッションの本質です。そして、それができる方こそ、「自分が生きている時代を生き抜く力」を身につけていると言えるでしょう。

そう考えると、リサーチ・フェアこそまさに絶好の機会です。ほかの学生・院生・教員が何を考え、何を伝えたいのか、そしてそれに自分はどうかどう応えるのか？ さらに議論の中から互いに思っても見なかった答えを探し出せるか？ という意味で、学問の新たな地平＝真のワンダーランドによろこそ！

リサーチ・フェア2016プログラム(当日、急な変更の可能性もありますので、掲示等にご注意下さい)

時間帯・教室ごとに、タイトルと発表代表者名・所属・学年、および記入された方のみゼミ名等を記入しました。

時間	EC Presentation									
	II-101	II-102	II-111	II-303	II-304	II-305				
9:00	<b>Gender Inequality</b> <i>Masayo Tsubosaka et al.</i>	<b>Homelessness</b> <i>Taichi Ogawa</i>	<b>Homelessness</b> <i>Ayaka Sato et al.</i>	<b>English Education</b> <i>Sae Tsunoda &amp; Rino Oneda</i>	<b>Gender Inequality</b> <i>Kaho Minamikawa et al.</i>	<b>Species</b> <i>Taiki Kobayashi et al.</i>				
9:30	<b>Gender Inequality</b> <i>Masayo Tsubosaka et al.</i>	<b>Homelessness</b> <i>Yuka Ueno et al.</i>	<b>Homelessness</b> <i>Ayaka Sato et al.</i>	<b>Climate Change</b> <i>Yuna Iwasa et al.</i>	<b>Gender Inequality</b> <i>Kaho Minamikawa et al.</i>	<b>Obesity</b> <i>Namiko Ando et al.</i>				
10:00	<b>Homelessness</b> <i>Taichi Ogawa</i>	<b>Homelessness</b> <i>Yuka Ueno et al.</i>	<b>English Education</b> <i>Sae Tsunoda &amp; Rino Oneda</i>	<b>Climate Change</b> <i>Yuna Iwasa et al.</i>	<b>Species</b> <i>Taiki Kobayashi et al.</i>	<b>Obesity</b> <i>Namiko Ando et al.</i>				
10:30	口頭発表					自由形式				
	A会場 (II-101)	B会場 (II-102)	C会場 (II-111)	D会場 (II-201)	E会場 (II-204)	II-105	II-107	II-109	II-112	II号館北側入口
11:00	A101 How can teachers adapt student's English skills to social needs? 近藤巧(総政3年)	B101 中国の炭素税導入が各産業部門の価格に及ぼす影響 王文凱(総政M2)	C101 Toward a solution to the overstayer problem 井上潤(総政3年; Sawyerゼミ)	D101 Step towards Inclusive Education ~Children with Disabilities in Cambodia~ 内藤早百合(総政3年)他	E101 南海トラフ巨大地震発生後の海南海市の避難計画のあり方 平口真大(総政3年; 照本ゼミ)他				Apple Watchの私生活への活用 鄧詩華(総政4年)他 11:00~12:00	
11:30	A102 The Communicative Approach in English Education ~The Role of ALTs~ 眞見栄央(総政3年; Sawyerゼミ)他	B102 Vegetarianism for the Future 賀川明香里(京都学園高1年)他	C102 Problems in Communication between Members of High-context and Low-context Cultures 伊東篤史(総政3年; Sawyerゼミ)	D102 ビジネスで変える途上国 高橋知雅(総政3年; 西野ゼミ)他	E102 超高層建物のモニタリングによる損傷推定法に関する研究 孫光宇(総政M1)					
12:00	A103 A Useful role for culture in language education 井上雅菜(総政3年; Sawyerゼミ)	B103 うなぎは食べられなくなるのか 森田舜之(総政3年; 朴ゼミ)他	C103 The relation between English music and English language acquisition 三木春菜(総政3年; Sawyerゼミ)	D103 EUにおける外国人受け入れ ~フランスの政策を中心に~ 小林みのり(総政3年; 園田ゼミ)他	E103 和歌山県御坊市における津波避難の住民意識調査~南海トラフ巨大地震に備えて~ 福嶋克規(総政3年; 照本ゼミ)他					
12:30	A104 大学生の学業に対する意識 鈴木ふみか(総政3年)他	B104 Will food be affordable in the future? 石川未久(京都学園高1年)他	C104 現代の若者の美容意識 ~男性用化粧品の可能性~ 倉橋葵(総政4年; 伊佐田ゼミ)	D104 分断される日本~Who Are We?~ 戸田涼介(総政2年)	E104 まちの空きは心の空き ~埋めよう空き家と空き店舗~ 稲本陽太(総政3年; 客野ゼミ)他					
13:00	A105 共に生きよう、SNS。 皆内春乃(岡山龍谷高2年)他	B105 どうなる!?ファストファッションの未来 奥村祐哉(総政3年; 宮川ゼミ)他	C105 Manga for Mutual Understanding of Japanese Kikokushijos' Re-entry Challenges 橋本果奈理(総政3年; Sawyerゼミ)	D105 Are the U.S. and China Doomed to Conflict? 宇都宮瑞希(総政2年)他	E105 熊本地震における仮設住宅での生活環境に関する調査 若宮郭希(総政3年; 照本ゼミ)他					
13:30	A106 大学生の恋愛類型と浮気の関係性 山崎隼介(総政3年; 李ゼミ)他	B106 Worldwide Food Waste 吉見慎人(京都学園高1年)他	C106 産む選択ができる社会へ ~出生前診断と中絶~ 末松雅剛(総政3年; 細見ゼミ)他	D106 中国の朝鮮戦争への参戦から見る中朝関係に関する研究 于麗雅(総政M1)	E106 みどりが都市に及ぼす影響 ~単調なコンクリートジャングルに彩りを~ 白井麻里(総政3年; 客野ゼミ)他					
14:00	ポスター発表ディスカッションタイム (タイトル・発表代表者は次ページに掲載) 14:00~15:00 (神戸三田キャンパス II号館廊下)									
15:00	A107 日本の都市におけるシビックプライド醸成 ~三田市でのまちの誇りの生み出し方~ 永尾俊晴(総政3年; 角野ゼミ)	B107 Next-generation agriculture for the earth 伊藤麻里(京都学園高1年)他	C107 大学生の政治意識とその背景にあるもの 大山康平(総政4年; 李ゼミ)	D107 戦後賠償はまだ終わっていない! 大和千咲葵(総政3年; 井上ゼミ)他	E107 人間を誘導する音の魅力 坂口恵里香(総政4年; Tjierinoゼミ)					
15:30	A108 日本と韓国の住居比較 藤岡大貴(総政3年; 清水ゼミ)他	B108 韓国4大河川事業は今 ~この事業で失われたもの、得たもの 現地報告と訴訟の結果~ 前田真生(総政3年; 関根ゼミ)他	C108 所得格差は本当に問題か~高齢者の所得格差・資産格差問題~ 渡辺雄平(総政3年; 長峯ゼミ)他	D108 アジア統合のかたちを探る~英国EU離脱から見えてくるものとは~ 古谷洗樹(総政3年; 坂口ゼミ)他	E108 五感を通じた空間印象に及ぼす影響~音楽×照明~ 福島千晶(総政3年; 客野ゼミ)他					
16:00	A109 ドラマによって注目された地域の活性化政策 柳瀬梨南(総政4年; 伊佐田ゼミ)	B109 買いたくなる仕組み ~私たちは買わされている?~ 原田菜那(岡山龍谷高2年)他	C109 母親が子どもの生活習慣に与える影響 小村彩華(総政3年; 四方ゼミ)他	D109 日本の竹島? 韓国の竹島? ~国際司法裁判所で争ってみたい~ 伊藤七海(総政3年; 井上ゼミ)他	E109 メディアアートの可能性 ~中国の「文芸復興」を目指そう~ 鄭梓カン(総政4年; Tjierinoゼミ)他					
16:30	A110 Japan Crisis~試される地方創生~ 上野聡士(総政3年; 坂口ゼミ)他	B110 4泊5日の新ゴールデンルートで思いっきり韓国! ~韓国4大都市の学びと魅力~ 玉田さと子(総政3年; 関根ゼミ)他	C110 母子自立支援センターのシングルマザー就業支援事業の有効性 幣春菜(総政3年; 亀田ゼミ)他	D110 朝鮮半島統一シミュレーション ~東アジア秩序の大転換~ 増原亜樹(総政3年; 学生団体P&P)他	E110 You can go on a Trip 黄夢櫻(総政4年)他					
17:00	A111 学生による地域活性化 紀村楓(総政3年; 清水ゼミ)他	B111 What is most attractive about Japanese omotenashi? ~Our vision for inbound international tourism~ 清水佳菜(総政3年; Sawyerゼミ)他	C111 日本における所得格差は本当に問題か? ~希望もてる社会へ~ 若林祐登(総政3年)他	D111 南シナ海における国際紛争~沿岸国は国際条約をどう解釈するのか~ 曹チン茜(総政M1)	E111 スポーツ観戦動機とメディアとの関わり 林裕也(総政4年; 伊佐田ゼミ)					
17:30	A112 保存型・修景型まちづくりの都市空間構成の比較について ~兵庫県朝来市竹田町を対象に~ 坂井章(総政M1)	B112 若者のパン離れとその解決策 ~Mラボでの研究を通して~ 阿比留健(総政3年; 古川ゼミ)他	C112 所得格差は本当に問題か ~3条件からみる所得格差~ 小松美希(総政3年; 長峯ゼミ)他	D112 国際海洋法からみた南シナ海問題 竹内沙織(総政3年; 井上ゼミ)他	E112 インターネットテレビの諸現象及び状況 閻安(総政4年; Tjierinoゼミ)					
18:00	A113 中山間地域における「歩きたくなる因子」とは何か? ~「竹田城跡に頼らないまちづくり」を目指す兵庫県朝来市を対象に~ 高見将大(総政M1)	B113 無敵の駐車場事業 盛博貴(総政3年)他	C113 消費税増税は長期的景気悪化を引き起こすのか 本多裕(総政3年; 亀田ゼミ)他	D113 日本と台湾における対人コミュニケーション能力にあたる〇〇の影響 中島卓哉(総政3年; 伊佐田ゼミ)	E113 介護者と要介護者のニーズに対応した新たなサービス ~SNSを活用して~ 関岡歩実(総政3年; 細見ゼミ)他					
18:30	A114 台湾人観光客向けWi-Fi対策 ~地方都市北海道~ 黒田圭菜(総政4年)他									

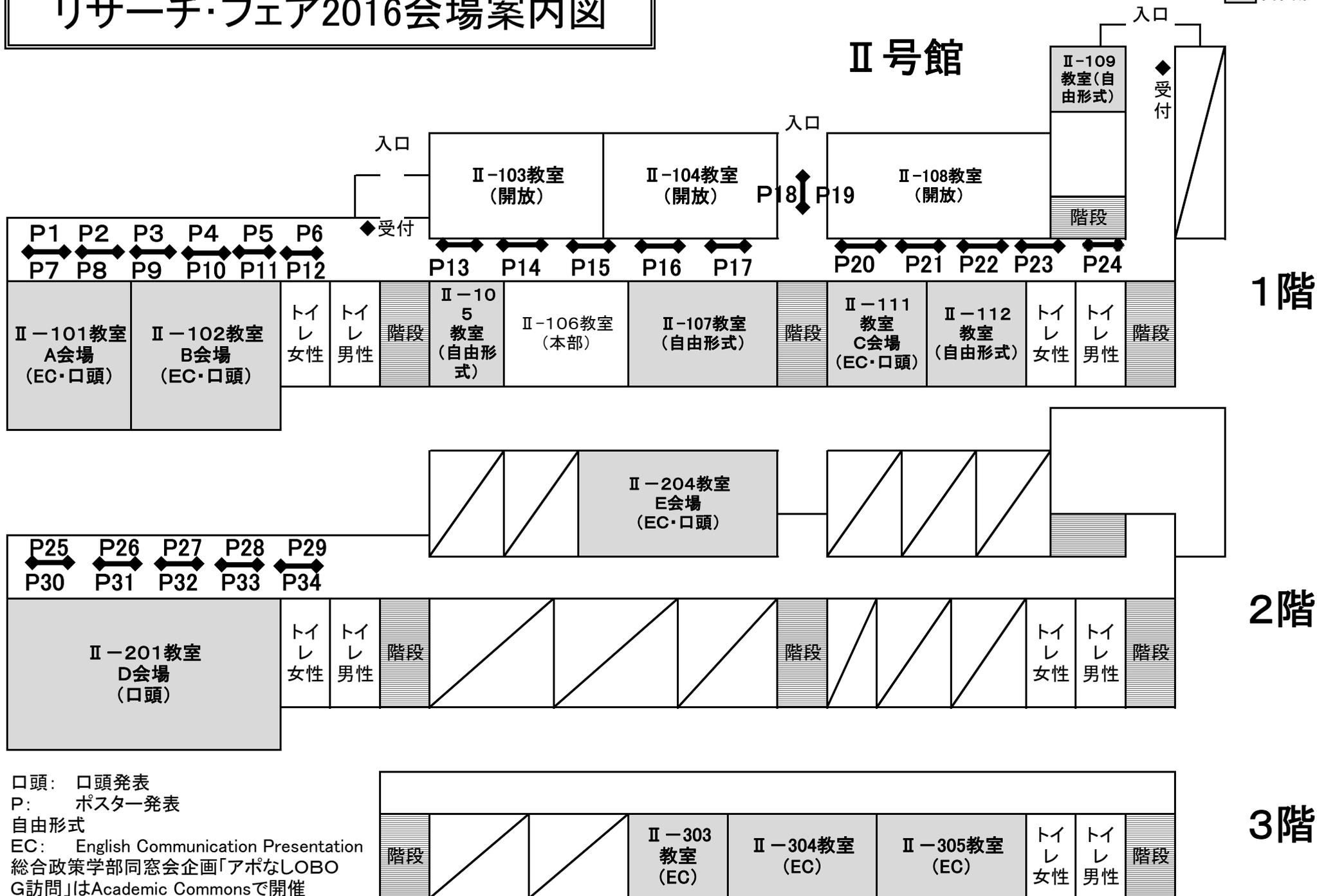
第1日(金曜日)

時間	ポスター発表（ディスカッションタイムは第1日〔金〕の14:00～15:00）								
	No.	発表者	タイトル	No.	発表者	タイトル	No.	発表者	タイトル
第1日〔金〕 14:00～15:00 ディスカッションタイム	P 1	松田果穂(総政3年;安ゼミ)他	TATの新市場進出戦略 ～西宮からフィリピンへ～	P 13	増田幸枝(兵庫県立大学シミュレーション学研究所M1)他	複数回の地震動を受ける地域における建物被害予測～2016年熊本地震における益城町での建物実被害との比較～	P 25	若菜理彩(総政3年;李ゼミ)他	親の養育態度と子供の非行 ～子供の過ちって親の責任なん?～
	P 2	前田修作(総政3年;宮川ゼミ)他	最高のお・も・て・なし ～観光立国に向けた多言語対応～	P 14	酒井美菜子(総政4年;長峯ゼミ)他	熊本地震の被災地を訪問して	P 26	加藤千明(総政4年;李ゼミ)	自殺の因果関係の研究 ～都道府県のデータをもとに検証～
	P 3	坪井理沙(総政3年;Tijerinoゼミ)他	SNS型広告専用アプリの開発を目指して	P 15	辻田百合菜(総政M2)	ドイツエアランゲン市と西宮市を事例とする市街地における太陽光発電設置の地理的要因の分析とそのポテンシャル評価～GISによる空間統計分析を用いて～	P 27	小林真弥美(総政3年;今井ゼミ)他	観光客に脅かされる、世界遺産 ～日本における登録第一号 屋久島の事例～
	P 4	片ノ坂真由(総政3年;Tijerinoゼミ)他	ARを使用した観光名所の活性化	P 16	木本修輔(総政3年;安高ゼミ)他	一人暮らしの大学生にとって三田市は住みやすいのか	P 28	魚谷早希(総政3年;今井ゼミ)他	日本におけるペットの店頭販売について
	P 5	森田直貴(総政3年;山根ゼミ)他	神戸市北区・淡河本陣跡を活用した地域活性化の提案	P 17	西田郁実(総政3年;宮川ゼミ)他	あなたの傘、そんなに必要?～傘の大量生産・大量消費・大量廃棄について～	P 29	森上広太郎(総政3年;安高ゼミ)他	神戸市を中心とするイノシシ問題に対する意識調査
	P 6	辻本和也(総政M2)	鉄道沿線から見た都市再生の再考 ～神戸三ノ宮を事例として～	P 18	重兼里衣子(総政3年;山根ゼミ)他	マレーシアの事例からみる多民族の共生	P 30	河杉一樹(総政3年;今井ゼミ)他	外来種に対するこれからの政策
	P 7	岡本彩(総政3年;齊藤ゼミ)他	空き家と向き合う	P 19	中尾望結(北摂三田高2年)他	日本人の国際観	P 31	福岡翼(総政3年;Tijerinoゼミ)他	KinectによるVirtual Mirrorの応用
	P 8	和田楓子(総政3年;山根ゼミ)他	持続可能な郊外住宅とは何か ～里山住宅の提案～	P 20	藤川茜(総政3年;Tijerinoゼミ)他	言語学習におけるアニメーション・漫画の利用～外国人の日本語学習～	P 32	西地智也(総政3年)	AR(拡張現実)利用による観光事業
	P 9	濱田将琴(総政3年;斎藤ゼミ)他	持続可能な地域活性化の要因は何か	P 21	兼田誠(総政4年)他	日本語における単語連鎖とはどのようなものか?	P 33	江坂孝祐(総政3年;Tijerinoゼミ)	音の影響力～音の持つ力とは?～
	P 10	梅田朋佳(総政M1)	ため池の有効活用に関する研究	P 22	佐伯民江(総政M2)	健康寿命の決定要因は何か? ～生活習慣病の予防策を提案する～	P 34	竹内一将(総政3年;Tijerinoゼミ)	オブジェクト指向プログラムを用いたMVCフレームワークの活用
	P 11	小林真洋(総政M2)	丹波立杭焼と連携した竹材消費による里山的森林管理の提案	P 23	中田知志(総政3年;安高ゼミ)他	日本人の食生活の変化に伴う健康問題、および身体的変化			
	P 12	伊吹紗也子(総政3年)	過疎地におけるライドシェアの可能性	P 24	柏文太(総政3年;宮川ゼミ)他	恋せよ、若者!～絶食時代の恋愛事情～			

時間	口頭発表				
	A会場(II-101)	B会場(II-102)	C会場(II-111)	D会場(II-201)	E会場(II-204)
10:00	A201 カンボジアの今 浅田佑太郎(関学高等部2年)他	B201 三田市におけるコンビニの新サービス戦略の提案 木元ひとみ(総政3年;古川ゼミ)他	C201 戦後日本と私たちの家族 上田勇輝(総政3年;柴山ゼミ)他	D201 沖縄普天間飛行場の県外移設は軍事学的側面から考察した上で可能かどうか 志和将広(総政3年;小池ゼミ)他	E201 空き家の予防策とは 吉本莉緒(総政3年;清水ゼミ)他
10:30	A202 中国における低所得者向けの住宅政策 齊派(総政M1)	B202 地域における外国人児童に対する日本語教育充実のための提言 ～群馬県太田市と愛知県との比較～ 白神詩織(兵庫高2年)他	C202 戦時中の規制～言葉と身体の見点から～ 山本奈実(法4年)他	D202 開発途上国の飢餓状態を改善するために～有機農業は農業従事者を救えるか～ 織田郁公子(千里国際高3年)	E202 みんなが集う商店街 ～御影水館の生き残り策～ 伊藤綾美(御影高2年)他
11:00	A203 女性の自立支援～カンボジア・フィールドワークの経験から学んだこと～ 小林美澄(関学高等部2年)他	B203 地域アイデンティティの創出 ～サウンド・スケープの視点から～ 村田真悟(総政M1)	C203 金融緩和が期待物価に与えるアナウンスメント効果 吉田真理子(総政3年;亀田ゼミ)他	D203 平和主義と安全保障 ～政策決定者の世界観～ 岡田理香(総政3年;柴山ゼミ)他	E203 郊外における駅前の拠点化の可能性と方向性～神戸電鉄 粟生線(鈴蘭台駅～三木駅間)の各駅を対象として～ 青木嵩(総政M1)
11:30	A204 女性をめぐる諸問題 北島眉子(法4年)他	B204 目力看板を超えろ! ～三宮の不法駐輪から考える～ 雨宮航平(御影高2年)他	C204 なにが日本の長期景気後退を引き起こしたか?～動学的確率的一般均衡モデルを用いた実証分析～ 葦原彰人(総政M1)	D204 ミャンマーの政治家による汚職をなくすためには～ミャンマーへの企業進出から見る可能性～ 横山菜乃(千里国際高3年)	E204 Music Therapy 前川千咲葵(葦高1年)他
12:00	A205 カンボジアの人々の暮らし 西田千鶴(関学高等部2年)他	B205 奈良県の農業政策 前川麻里子(法4年)他	C205 これからの神戸三田キャンパスのあり方 中岡航太郎(総政1年)	D205 The motivation of native-speaking English teachers at Osaka English Village 長橋千秋(総政3年;Sawyerゼミ)	E205 兵庫区における妊産婦を対象とした虫歯予防啓発の提言 鳴美天斗(兵庫高1年)他
12:30		B206 『顔なじみ』の関係をつくる ～高校生と震災～ 廣岡季陽里(御影高2年)他		D206 Soap de hope? ～ソルトパヤタスに石鹸を～ 小瀧志織(葦高2年)他	E206 日本の環境モデル都市政策に関する考察 葛亮亮(総政M2)
13:00	総合政策学部同窓会企画「アポなしOBOG訪問」 (Academic Commons) 詳しい内容は27～30ページを御覧下さい				
16:00	表彰式・懇親会(第3厚生棟を予定)				

# リサーチ・フェア2016会場案内図

自由形式



口頭: 口頭発表

P: ポスター発表

自由形式

EC: English Communication Presentation

総合政策学部同窓会企画「アポなしLOBO

G訪問」はAcademic Commonsで開催

# Research Fair 第1日 (11月18日 [金])

## Research Fair EC Presentation Schedule 2016

(9:00~10:30)

■学外から来られた高校生の皆様へ

発表中の教室への入室は厳禁です (9:00、9:30、10:00の入れ替え時のみ入出可)。

教室のスペースで、学外からの高校生の方等の入室受入数に制限があります (下記注意)。

とくにII-111、II-303は教室が狭いため、入室できません。

教室	9:00~9:30	9:30~10:00	10:00~10:30	学外者受入数
II-101	<b>Gender Inequality</b> <i>Masayo Tsubosaka</i> <i>Emi Inazumi</i> <i>Yukie Yano</i>	<b>Gender Inequality</b> <i>Masayo Tsubosaka</i> <i>Emi Inazumi</i> <i>Yukie Yano</i>	<b>Homelessness</b> <i>Taichi Ogawa</i>	高校生の方等は60名まで受け入れ可能です。
II-102	<b>Homelessness</b> <i>Taichi Ogawa</i>	<b>Homelessness</b> <i>Yuka Ueno</i> <i>Saki Wada</i> <i>Aya Watanabe</i> <i>Haruka Inoue</i>	<b>Homelessness</b> <i>Yuka Ueno</i> <i>Saki Wada</i> <i>Aya Watanabe</i> <i>Haruka Inoue</i>	高校生等の方等は80名まで受け入れ可能です。
II-111	<b>Homelessness</b> <i>Ayaka Sato</i> <i>Chiharu Suhara</i> <i>Mayu Wakitani</i>	<b>Homelessness</b> <i>Ayaka Sato</i> <i>Chiharu Suhara</i> <i>Mayu Wakitani</i>	<b>English Education</b> <i>Sae Tsunoda</i> <i>Rino Oneda</i>	教室が狭いため、申し訳ありませんが、高校生等の方等はご遠慮下さい。
II-303	<b>English Education</b> <i>Sae Tsunoda</i> <i>Rino Oneda</i>	<b>Climate Change</b> <i>Yuna Iwasa</i> <i>Misato Ishikawa</i> <i>Kana Yamauchi</i>	<b>Climate Change</b> <i>Yuna Iwasa</i> <i>Misato Ishikawa</i> <i>Kana Yamauchi</i>	教室が狭いため、申し訳ありませんが、高校生等の方等はご遠慮下さい。
II-304	<b>Gender Inequality</b> <i>Kaho Minamikawa</i> <i>Kahoru Masumoto</i> <i>Namiko Tanimoto</i> <i>Nami Anbiru</i>	<b>Gender Inequality</b> <i>Kaho Minamikawa</i> <i>Kahoru Masumoto</i> <i>Namiko Tanimoto</i> <i>Nami Anbiru</i>	<b>Species</b> <i>Taiki Kobayashi</i> <i>Ri-Na Sachidanandokumba-Ru</i> <i>Konomi Nakayama</i>	教室が狭いため、高校生等の方等は20名が限度です。
II-305	<b>Species</b> <i>Taiki Kobayashi</i> <i>Ri-Na Sachidanandokumba-Ru</i> <i>Konomi Nakayama</i>	<b>Obesity</b> <i>Namiko Ando</i> <i>Mami Shimomura</i> <i>Mizuki Utsunomiya</i> <i>Yuko Koga</i>	<b>Obesity</b> <i>Namiko Ando</i> <i>Mami Shimomura</i> <i>Mizuki Utsunomiya</i> <i>Yuko Koga</i>	教室が狭いため、高校生等の方等は20名が限度です。

## 第1日(11月18日)口頭発表A会場(Ⅱ号館101教室)

11:00	<p><b>How can teachers adapt student's English skills to social needs?</b></p> <p style="text-align: right;"><i>近藤巧(総政3年)</i></p> <p>Information and Communication Technology (ICT) has become an important concept in the education field, especially English Education. However, despite the high costs of many forms of ICT, many teachers remain unwilling or unable to bring out the full potential of ICT, mainly due to lack of appropriate training. This presentation will show what ICT can do beyond conventional English education methods, and suggest how teachers can be empowered to use ICT effectively.</p>
11:30	<p><b>The Communicative Approach in English Education ~The Role of ALTs~</b></p> <p style="text-align: right;"><i>眞見茉央(総政3年; Sawyerゼミ)・絹本祐美</i></p> <p>We will first discuss the present condition and problems of the communicative approach, focusing on English classes which are conducted by Assistant Language Teachers (ALTs). In addition to reviewing existing research, we will present questionnaire and interview results concerning the previous experiences with ALTs of students and Japanese Teacher of English (JTE), for example, how they perceive the relationships and division of tasks between JTEs and ALTs. Next, according to the results, we will think about how to make the most effective communicative English classes with ALTs.</p>
12:00	<p><b>A Useful role for culture in language education</b></p> <p style="text-align: right;"><i>井上稚菜(総政3年; Sawyerゼミ)</i></p> <p>Recently, Japan is trying to develop people who have global viewpoints by improving the English education at school. An important factor for having a global view point is understanding culture, but this aspect of education is not enough in Japanese school. This presentation will provide ideas for how cultural education could be included in English education, as well as other subjects such as ethics and will suggest ways of avoiding preconceptions that may be caused by overgeneralized cultural education.</p>
12:30	<p><b>大学生の学業に対する意識</b></p> <p style="text-align: right;"><i>鈴木ふみか(総政3年)・片岡直樹・谷川果奈美</i></p> <p>中高生と比べ、大学生は比較的自由な時間が増える。そのため学業以外にもサークル活動やアルバイト、部活動などその他の活動に多くの時間を費やす大学生もおり、大学生の活動は多岐に渡っている。その反面、学業がおろそかになり、大学生の学力低下を懸念する声も挙がっている。そこで今回の研究では、データから大学生の学業に対する意識を調べ、その意欲を生む差異となる要因を分析する。そこから、大学生の学業への姿勢を理解した上で、望ましい大学教育とは何なのかを考察する。</p>
13:00	<p><b>共に生きよう、SNS。</b></p> <p style="text-align: right;"><i>皆内春乃(岡山龍谷高2年)・松崎瑤・早川沙希・松本吹雪・三高優花</i></p> <p>近年、ニュースや新聞で学生のいじめや自殺の話をよく耳にします。特にここ最近の事件の多くは、SNS絡みのトラブルと関係があるように報道されています。今の時代、若者の大半が何かしらのSNSに登録し、利用しています。使い次第で、便利にも、凶器にもなり得ますが、私たちはSNSとどのように付き合っていくべきなのでしょう。高校生にとって身近なサービスであるからこそ、その実態を正確に調べ、いじめなどの事件との関連性を研究したいと思いました。調査結果をもとに、高校生の視点でSNSをうまく活用する現実的な方法を提言したいと考えています。この研究で少しでも多くのトラブル解決に役立てばよいと考えております。</p>
13:30	<p><b>大学生の恋愛類型と浮気の関係性</b></p> <p style="text-align: right;"><i>山崎隼介(総政3年; 李ゼミ)・秋山直央・川合彩奈・北村綾香・田中真愛</i></p> <p>我々李ゼミは、統計学、行動分析学を用いた研究を行っている。そこで、今年芸能界で騒がれていた不倫問題を取りあげ、浮気をしてしまう人、そうでない人にはどのような差があるのかを研究したいと考えている。行う調査にあたり、関西学院大学の学生を対象に、アンケートを行い、収集したアンケートの結果から恋愛におけるタイプ分けを行った。タイプ分けから、どのようなタイプの人が浮気をしやすいのか、またそうでないのかを調査する。</p>

15:00	<b>日本の都市におけるシビックプライド醸成 ～三田市でのまちの誇りの生み出し方～</b> 永尾俊晴(総政3年;角野ゼミ) 今後日本の地方では、少子高齢化と人口減少が深刻となり、縮小型社会が進行し、中小都市間での競争が激化していくと予想される。都市間競争をより多くの都市が生き抜くためにも、都市独自の持つ地域資源や歴史といった個性を活かしたまちづくりが必要だと思われる。その上で、都市に住む市民、また外部の様々な主体から愛着や誇り、当事者意識(=シビックプライド)を持ってもらう都市になることは重要なのではないだろうか。日本の都市においてシビックプライドはどのように形成されるべきか、例として三田市を挙げながら考察する。
15:30	<b>日本と韓国の住居比較</b> 藤岡大貴(総政3年;清水ゼミ)・古和雅光・金宏季・徳永風花 私たちは、日本と韓国の住宅比較をおこなう。本研究は、日本と韓国の住居に注目して、最新の家や流行りの家を比較し、違いを見つける。比較から、現在の家に至るまでの変遷を調べて日本と韓国の住居形態の違いにはどのような理由や背景があるのかを考える。共通点や相違点を踏まえて、両国の今後の住空間の在り方を探ることを目的としている。また、日本と韓国でお互いに影響している部分は何かということも研究し、今後の日本と韓国の住居の在り方を考え、提案していく。
16:00	<b>ドラマによって注目された地域の活性化政策</b> 柳瀬梨甫(総政4年;伊佐田ゼミ) ドラマ放映によって注目された地域の増加した観光客数を、ドラマ放映後も維持するための政策を提案します。ドラマの放映は舞台やロケ地となった地域の観光客数を増加させる、といった良い影響を与えますが、それは一時的なものであり、放映後の観光客数は減少する傾向にあります。そこで龍馬伝が放送されて以降、観光客数を維持し続けている高知県の取り組みや訪れている観光客を分析し、観光客数維持のための要因を明らかにします。
16:30	<b>Japan Crisis ～試される地方創生～</b> 上野聡士(総政3年;坂口ゼミ)・幾島佳世・小泉翔太・内藤早百合・保里千奈・三好宏樹・吉岡佑成 1991年のバブル崩壊以降、日本経済は20年以上にわたって低迷している。スイスの国際経営開発研究所が公表する「世界競争力ランキング」において、日本は1989年から92年まで連続して1位であったのが、2016年版では調査対象となった主要61か国中26位と、かつての勢いを完全に失っている。日本経済が世界競争から脱落してしまったのはなぜだろうか。発表では、日本の経済成長力低下の原因を究明し、諸外国の政策やアベノミクスが掲げる成長戦略も踏まえた考察を行いつつ、将来の日本の経済発展を実現していくための方策を提言する。
17:00	<b>学生による地域活性化</b> 紀村楓(総政3年;清水ゼミ)・山崎林蔵・吉村彩花 学生による地域活性化。現在、日本では少子高齢化や人口減少問題のよる大きな問題の一つとして地域の過疎化があります。地域の過疎化を解決するために、私たち学生が地域に介入し、その地域の活性化のためにできることは何か、学生という特権を利用してどのように地域介入できるかを、自分たちの大学のある兵庫県三田市を対象地域として絞り、現在研究しています。具体的には、地域活性化の既存事例を調べると同時に、三田の地域の特徴をも調べ、それら二つを考察したうえで学生の地域への関わり方を見つけていこうと考えています。
17:30	<b>保存型・修景型まちづくりの都市空間構成の比較について～兵庫県朝来市竹田町を対象に～</b> 坂井章(総政M1) 兵庫県朝来市は、2013年12月にグーグルのCMで竹田城跡が取り上げられて以来、観光客は急増した。2011年度までは年間10万人未満だった観光客が、2014年度には年間58万人に達し、その約半数が個人客である。しかし竹田城跡は訪れても、麓のJR竹田駅付近の竹田地域へ足を運ぶ観光客は全体の1～2割程度と非常に少ない。これはもともと観光地では無かった竹田地域が急に観光地化され、カフェや宿泊施設などのハードが不足していることが考えられる。竹田地域の現状の都市構造・都市景観を分析し、魅力ある街へと発展していくための考察を行う。
18:00	<b>中山間地域における「歩きたくなる因子」とは何か？ ～「竹田城跡に頼らないまちづくり」を目指す兵庫県朝来市を対象に～</b> 高見将大(総政M1) 「天空の城」竹田城跡の認知をきっかけに、急速に観光地化が進んでいる兵庫県朝来市は、この観光ブームを一過性のものとせず、持続可能なものとするために「竹田城跡に頼らない観光まちづくり」を目指している。その目標を実現するために、定点観測等を通してその街における人々のアクティビティとその構成要素を抽出し、どういった場所やアクティビティがまちの滞在要因となるのかということを分析します。
18:30	<b>台湾人観光客向けWi-Fi対策～地方都市北海道～</b> 黒田圭菜(総政4年)・金信愛・阿部修也・国府田アン・鄭雅文(総政3年) 2020年に東京オリンピックが開催されることもあり、日本のWi-Fi対策は日々改善されています。この2、3年で多様な対策が実施されていますが、それは本当にこれからの観光業において十分であるのか。また、台湾から日本への旅行者の数が増加しており、台湾人観光客への対策はこれからの観光業においてとても重要です。台湾人の人気訪問地で、なおかつwifi設備が不十分である北海道の特徴を利用したwi-fi対策を提案します。

**第1日(11月18日)口頭発表B会場(Ⅱ号館102教室)**

11:00	<p><b>中国の炭素税導入が各産業部門の価格に及ぼす影響</b>  <span style="float: right;">王文凱(総政M2)</span></p> <p>中国は改革開放という政策を採用し、計画経済が市場経済に変わった。しかし、急速な経済成長にともない、エネルギーの消費量も急激に増加した。中国が世界一のCO<sub>2</sub>排出国となった。この窮地から離脱するために、炭素税という経済政策が検討されている。ところで、炭素税の導入が中国の産業部門にどれほどの影響を与えるのだろうか？本研究は炭素税の導入について、中国の産業部門への価格波及効果を推計する。</p>
11:30	<p><b>Vegetarianism for the Future</b>  <span style="float: right;">賀川明香里(京都学園高1年)・島津花野・佐田真央・吉井未羽</span></p> <p>Do you think cow burps can change the climate? Climate change takes thousands of years to occur, but we are currently experiencing many changes that affect food development. It's believed that the population of the world will exceed 9 billion by 2050. People eat meat every day, so there are a lot of cattle to provide the food. However too many cattle have a negative effect on climate change. So we think if people become vegetarian, we can reduce CO<sub>2</sub>, deforestation and greenhouse gases.</p>
12:00	<p><b>うなぎは食べられなくなるのか</b>  <span style="float: right;">森田舜之(総政3年;朴ゼミ)・畑麗奈・曹勝宙</span></p> <p>ウナギ、と言えば日本人なら一度は食べたことのある国民的な食物です。ウナギの漁獲量は年々減少しており、2014年に絶滅危惧種に指定されました。減少の理由に、ウナギの乱獲や河川環境の悪化が挙げられます。ウナギの生態系は特殊であり、いまだ完全な解明にはいたっていません。私たちは、ウナギの生態に触れながら、規制やウナギの代替品などの減らさない方法と、養殖や放流などの増やす方法を考察していきます。そして、この先どうすれば、私たちはウナギを食べ続けることが可能なのか、考えていきたいと思えます。</p>
12:30	<p><b>Will food be affordable in the future?</b>  <span style="float: right;">石川未久(京都学園高1年)・谷口一真・田村美奈・南凜</span></p> <p>Do you know the current situation of fossil fuels? Most of Japanese can eat food without worrying about there being enough, but they don't know the current condition about farming methods. Recently, these farmers are using a lot of fossil fuels to grow their harvest, so fossil fuels have been decreasing. At some point, these fossil fuels will run out. What can we do about this problem? Our group will present some ideas that can replace the fossil fuels for our future.</p>
13:00	<p><b>どうなる！？ファストファッションの未来</b>  <span style="float: right;">奥村祐哉(総政3年;宮川ゼミ)・竹村彩香・前田宏太・阪口貴大</span></p> <p>最近多くの人々が購入し、身に着けているファストファッション。なぜファストファッションは安いのか考えたことはあるだろうか。この安さの裏側には、生産の効率性に関わる企業努力の他に、発展途上国における労働問題(劣悪な労働環境、低賃金労働など)があるといわれている。また、衣類の製造にともない、環境問題が発生している場合があることも指摘されている。これらのことが人々に広く認知された場合、ファストファッションの未来はあるのだろうか。本研究では、衣類の購買に関する調査を実施し、ファストファッションの未来について検討する。</p>
13:30	<p><b>Worldwide Food Waste</b>  <span style="float: right;">吉見慎人(京都学園高1年)・西浦陽翔・西村誠也・渡部志野</span></p> <p>Today, Massive amount of food is wasted all over the world. In developing countries, food is wasted because they don't have the techniques to harvest and keep food. In developed countries, food is wasted because consumers buy more food than needed and 1.3billion tons of food is being wasted away per year. People in poverty don't have a way to choice foods. They rely on agriculture. Our group will discuss how this food is wasted and solutions to minimize the problem in the future.</p>

15:00	<b>Next-generation agriculture for the earth</b> <i>伊藤麻里(京都学園高1年)・川中優月・富室杏純・山口歩香</i> What is a good agriculture for environment? The forest area decreases every year, and 5.2 million hectares are destroyed. It is thought that one of the reasons for forest devastation, desertification and biodiversity loss is caused by the Slash-and-Burn farming. It was found that the elimination of about 35% of the rain forest in the U.S., 49% in Asia and 70% in Africa is caused by Slash-and-Burn farming. It can have a bad effect on the ecosystem. Are there any good methods to solve the problem? An effective solution to the problem will be presented in our presentation.
15:30	<b>韓国4大河川事業は今～この事業で失われたもの、得たもの 現地報告と訴訟の結果～</b> <i>前田真生(総政3年:関根ゼミ)・福重修平・松本梢兵・チョンヒジョン</i> 李明博前政権によって行われた4大河川事業とは、治水・利水・親水・水質改善・グリーンニューディールを目的とされた河川事業である。これが環境問題を引き起こしたとして、1万人近くの市民からなる国民訴訟団が結成され、行政訴訟が起こされた。この事業によって得たものと環境問題によって失われたものを、実際に我々が現地で観察したものをふまえ、下された判決を我々自身の視点から環境社会学・行政法等の観点を用いて評価する。
16:00	<b>買いたくなる仕組み～私たちは買わされている?～</b> <i>原田菜那(岡山龍谷高2年)・花房瞳・宮地真由・陶孟越・酒向佑季</i> 皆さんは普段、どのような基準で「モノ」を買っているのでしょうか。ブランド、デザイン、機能性、評判などなど。ただこの選択において私たちは自分の意志で選んでいるつもりですが、ひょっとしたら企業の戦略によって誘導されているのかもしれないと感じたことはありませんか? そこで私たちは、いかにして企業が買い手側の考えを読み取り、商品を開発し売り込んでいるのかを知りたいと思い、私たちにとって、一番身近な「モノ」である文房具をサンプルとして注目し、調査することにしました。
16:30	<b>4泊5日の新ゴールデンルートで思いっきり韓国!～韓国4大都市の学びと魅力～</b> <i>玉田さと子(総政3年:関根ゼミ)・周沛琦・中垣内朱音・寺西真理</i> 私達関根ゼミは、9月に4泊5日で韓国へFWIに行ってきました。釜山、慶州、大邱、ソウルの順で韓国の歴史、文化、都市計画について学び、普段観光では行かないような場所にも足を運びました。釜山では、韓国の驚くべき都市計画と、市場へ、慶州では仏国寺や慶州皇南古墳群へ行き、韓国の歴史・文化について学びました。大邱はグルメを、そしてソウルは日本に劣らない、むしろ日本を超える近代的な韓国都市について発表します。新たな韓国観光ルートと四大都市の魅力を提案します。
17:00	<b>What is most attractive about Japanese omotenashi? ～Our vision for inbound international tourism～</b> <i>清水佳菜(総政3年:Sawyerゼミ)・阿部礼奈・三嶋のぞみ</i> How could "omotenashi" be most attractive for international guests and bring about the development of inbound international tourism in Japan? This presentation will identify aspects of Japanese "omotenashi" that are especially appealing to international visitors, and discuss strategies for hotels to draw more international guests utilizing omotenashi. We will analyze the forms of omotenashi most likely to be appreciated interculturally, as well as those with uniqueness. We will apply these ideas toward proposing effective ways to capitalize on the 2020 Tokyo Olympics. This presentation will be based on our study through internship experience and research.
17:30	<b>若者のパン離れとその解決策～Mラボでの研究を通して～</b> <i>阿比留健(総政3年:古川ゼミ)・堀家将平・南田翔平・林咲希・坊将徳・榎谷誠</i> 私たち古川ゼミでは、毎年、神戸新聞社主催のMラボという研究インターンに参加しています。今年、神戸で創始され、フランスパンを日本に広めたことで有名になったリテールベーカリーチェーン、株式会社ドンク様とタッグを組み、ドンク様の抱える課題を研究してきました。その課題は「若者の困い込み」と「食事パンの認知拡大」です。私たちの親の世代はドンク様を知っているのにもかかわらず、私たちの世代はドンク様を知る人は少ない。企業の課題をどのようにして解決するか、その戦略案を発表します。
18:00	<b>無敵の駐車場事業</b> <i>盛博貴(総政3年)・上垣内知洋・今山祐介・北山真優</i> 私たちは車に乗って外出をするとき、駐車場を利用する。コインパーキングは、タイムズを運営するパーク24のような全国に展開する企業がよく想像されるが、地域に密着した企業も存在する。私たちは地域に密着した企業が地域に貢献できる事業を提案することにした。そこで私たちは地域に密着した企業の駐車場に、その地域のお店を宣伝する電子広告を設置することを考えた。そこで、大学生を対象にアンケートを行い、電子広告の有用性と広告にすることによって効果的な分野を分析する。

## 第1日(11月18日)口頭発表C会場(Ⅱ号館111教室)

11:00	<p><b>Toward a solution to the overstayer problem</b> 井上潤(総政3年; Sawyerゼミ)</p> <p>Overstayers means non-Japanese people who stay in Japan excess of the terms of their visas. There are some facilities to accomodate overstayers while their cases are being processed. Those people cannot work at Japan without getting refugee status. Some of them have become overstayer even though they have worked in Japan for more than ten years. This research will seek a policy to reduce numbers of those people. To find the way, this research will refer both to personal aspected based on primary reserch at the Omura Immigration Center, and to political aspects based on documents published by the Japan Immigration Breau.</p>
11:30	<p><b>Problems in Communication between Members of High-context and Low-context Cultures</b> 伊東篤史(総政3年・Sawyerゼミ)</p> <p>This presentation explores problems in communication between members of high-context and low-context cultures. People from different culture often misunderstand each other. I claim that the misunderstandings are caused by communication style: high-context or low-context communication style. Japan is regarded as a high-context culture country. On the other hand, America is seen as a low-context country. In this presentation, I will state the problems of communication in high-context and low-context culture and the solutions, by comparing Japan and America.</p>
12:00	<p><b>The relation between English music and English language acquisition</b> 三木春菜(総政3年; Sawyerゼミ)</p> <p>These days, acquiring English skills is becoming a great demand in society for Japanese people. One of the ways to develop English is by listening to English music. However, does it actually work even if people are not conscious of the English lyrics? Or if they don't understand the whole meaning of the lyrics? Does it help to use a dictionary when listening to English music? Or is listening to music in English just one of the opportunities to motivate people to learn English? This research, thus, reveals how much English ability and English music are related, and how the way that people listen to English music affects their English skills.</p>
12:30	<p><b>現代の若者の美容意識～男性用化粧品の可能性～</b> 倉橋葵(総政4年; 伊佐田ゼミ)</p> <p>本研究では、若者の美容意識や化粧行動の起因となるものが何であるのかを明らかにする。特に現代の若年男性においては、「メトロセクシャル」や「ジェンダーレス」といった言葉が話題となったように、その美容意識が高くなってきていると推測する。そして、その理由には性役割の変化や自意識が関連していると考え、アンケート調査、分析を行った。男性性・女性性の高さや自意識が、美容意識に影響を与えるのか、それらは実際に行う化粧にもつながるのかなどを明らかにし、現代の若者が求める化粧品やそのプロモーション方法を提案する。</p>
13:00	<p><b>Manga for Mutual Understanding of Japanese Kikokushijos' Re-entry Challenges</b> 橋本果奈理(総政3年; Sawyerゼミ)</p> <p>Returnees experience culture shock upon coming back to Japan like Japanese people experience upon arriving in a foreign countries. I conducted interviews with returnees to listen to their experiences, discover their most severe problems upon coming back, and find out what strategies they used to overcome these problems. Based on those interviews, I decided to draw bilingual comic books in English and Japanese to make it easier for returnees to readjust to Japan and for other Japanese people to understand returnees' challenges. This presentation will introduce the specific problems and show more sample manga that might help to solve them.</p>
13:30	<p><b>産む選択ができる社会へ～出生前診断と中絶～</b> 末松雅剛(総政3年:細見ゼミ)・山西杏奈・松原聖美・飛田翔太郎・阿部純奈・百野尊氏・高木万里子</p> <p>現在、医療技術の目まぐるしい進歩により、出生前診断ができる世の中になった。そのおかげで、生まれる前の胎児が障がい者であるかどうかを把握することができ、その夫婦は中絶するという選択ができるようになった。一方で、出生前診断により障がい者に対する差別や、偏見を助長する可能性も生み出したと言われている。今回の発表は、「出生前診断で胎児が障がい者と診断された場合に、その夫婦が生む選択をする社会にするためにはどうすれば良いか」である。我々は上記の課題の解決策を提案する。</p>

15:00	<b>大学生の政治意識とその背景にあるもの</b> <p style="text-align: right;">大山康平(総政4年; 李ゼミ)</p> <p>日本政治を取り巻く環境は大きく変化している。特に公職選挙法の改正により、大学生は基本的に選挙権を持つことになった。またSNSなどの発達により、メディアも変化している。メディアと政治は切り離せないものであると考え、また生活の中で政策に対する賛否は生まれると考えた。そこで本研究では、参議院選挙の直前に「大学生の政治意識とライフスタイル」をテーマに、アンケート調査を行った。リサーチフェアではその結果をもとに、「大学生が考える政策論」「大学生が望む日本」の2点について深く考察・発表する。</p>
15:30	<b>所得格差は本当に問題か～高齢者の所得格差・資産格差問題～</b> <p style="text-align: right;">渡辺雄平(総政3年; 長峯ゼミ)・川井友美子・中塚雅之・山中瑠夏</p> <p>私たちは所得格差問題について、高齢者に焦点を当て考察していく。現在日本では所得格差(ジニ係数)が拡大しているが、中でも高齢者の貧困率は深刻である。高齢者の低所得者と高所得者の間には資産格差という問題もあり、高齢者間では資産が非保有と高資産保有の二極化している現状もある。しかしながら、日本にはそれらの格差問題をうめる社会保障制度がある。その中で高齢者の収入に最も大きな割合を占める年金制度の考察を行い、年金制度の不備を明らかにし、所得格差是正に向けた実現可能性のある政策提案を行う。</p>
16:00	<b>母親が子どもの生活習慣に与える影響</b> <p style="text-align: right;">小村彩華(総政3年; 四方ゼミ)・長井芹香・大西諒</p> <p>近年、教育格差について家庭での教育が注目されている。その中で子どもの学校外における教育において、母親の影響が大きいことが明らかとされてきた。具体的には母親の就業状態や学歴と子どもの学習環境の関連が指摘されている。今回の発表では、子どもの生活習慣に対する母親の影響について着目した。家庭内の教育によって醸成されるものは学習面だけに限らず、生活習慣や規範意識といったものも含まれると考えたためである。その結果、子どもの生活への意識について母親による差異が生じている、という仮説を立て検証していく。</p>
16:30	<b>母子自立支援センターのシングルマザー就業支援事業の有効性</b> <p style="text-align: right;">幣春菜(総政3年; 亀田ゼミ)・高島溪太(総政2年)</p> <p>現代の日本において、母子世帯の子供の貧困率が問題視されている。その要因として、母子世帯の母親の就業状況が関わっている。シングルマザーの就業率向上のために、母子自立支援センターが公的就業支援事業を行っているが、その事業は果たして有効なのか。我々は全国の母子自立支援センターの相談・講習会の有効性の分析と、公的機関へのヒアリング調査を行うことで、本事業の有効性を観察し、事業の効果を高める政策を提言する。</p>
17:00	<b>日本における所得格差は本当に問題か? ～希望のもてる社会へ～</b> <p style="text-align: right;">若林祐登(総政3年)・松畑恵・川口しのえ・大槻有里奈</p> <p>所得格差問題が世界中でホットな話題となっている。日本においても、1990年後半から個人間の所得格差が拡大してきているという議論がある一方、所得格差はそれほど問題ではないという見解もある。そもそも、国民が所得格差について納得しているのなら、それは社会問題ではないのだが、日本の所得格差は果たして納得できるものなのであろうか。また、そうでない場合、何が問題であるのか。日本の所得格差について、深く考察していく。</p>
17:30	<b>所得格差は本当に問題か～3条件からみる所得格差～</b> <p style="text-align: right;">小松美希(総政3年; 長峯ゼミ)・植田悠介・大島沙記・岡本昇大・榊原侑奈</p> <p>所得格差は現在、世界中で注目されている問題である。日本においても、1990年代後半頃から個人間の所得格差が拡大してきていると議論されている。私たちは、現在日本が抱えている所得格差について、公平性、自立性、信頼性の三つの観点から所得格差を分析し、所得格差は本当に問題なのかということ明らかにしていく。そして最終的に、三つの観点においてそれぞれ国際比較をし、日本の位置づけを行い、これからの日本にどのような政策が必要なのかを提案する。</p>
18:00	<b>消費税増税は長期的景気悪化を引き起こすのか</b> <p style="text-align: right;">本多裕(総政3年; 亀田ゼミ)・中根真帆</p> <p>2016年6月、消費税増税は2度も延期された。これは2014年に行われた消費税増税後から消費水準が低迷し、現在も回復していないことが原因とされる。しかし、急速な高齢化を迎える日本にとって、増大する社会保障費の財源を確保するためにも、消費税増税は避けて通れない課題である。そこで私たちは、2014年以降の長期的な消費水準低迷の要因は、本当に消費税増税であるのかについて、分析を通して明らかにしていく。</p>

## 第1日(11月18日)口頭発表D会場(Ⅱ号館201教室)

11:00	<p><b>Step towards Inclusive Education～Children with Disabilities in Cambodia～</b>  <i>内藤早百合(総政3年)・巽音・大西貴大・田盛結菜・森口侑希奈(総政2年)</i></p> <p>Our presentation focuses on inclusive education, specifically for Cambodian people with disabilities who have been excluded from education. The Millennium Development Goals (MDGs) expired in 2015, and the Sustainable Development Goals (SDGs) for 2030 which replaced them have just started. Among the SDGs, inclusive education is regarded as one of the most useful ways to solve global problems such as poverty, hunger, and gender discrimination. Our presentation's goal is to figure out how to effectively include people with disabilities in Cambodian education.</p>
11:30	<p><b>ビジネスで変える途上国</b>  <i>高橋知雅(総政3年;西野ゼミ)・浦野楓・福田大介</i></p> <p>世界には1日1.9ドル以下で生活する貧困層が約7億人存在する。その中心はサヘル地域(サハラ砂漠以南のアフリカ)であり、その約半数が含まれている。一方で、アジア地域もまた貧困層を非常に多く抱え込む地域であり、見過ごすことは出来ない。今回、私たちは実際に、フィリピンのヌエバ・ビスカヤ州(首都マニラから車で北に約8時間)に赴き、現地の人々が抱える問題を調査した。その調査結果をもとに、現実的に解決可能な問題を絞り、ソーシャルビジネスと呼ばれる手法を用いて解決策を提案する。</p>
12:00	<p><b>EUにおける外国人受け入れ～フランスの政策を中心に～</b>  <i>小林みのり(総政3年;園田ゼミ)・大島夏美・岸本彩香・中植咲穂・橋本真希</i></p> <p>近年、内戦や経済的理由などの国内事情により、多くの難民・移民がヨーロッパでの定住を目指して域内への移動を試みている。歴史的に外国人の受け入れに寛容であるといわれるEU諸国では、人種や宗教・言語など文化的背景の相違が、これら新しい移住者と受入国の国民との間に様々な軋轢を生じさせている。こうした現状を踏まえて、フランスをはじめEU主要国の移民・難民政策を研究し、成功例および問題点を検討する。これを参考に、今後ますます少子高齢化の進む日本において、賛否両論のある外国人受け入れ政策がどうあるべきか、考察する。</p>
12:30	<p><b>分断される日本～Who Are We?～</b>  <i>戸田涼介(総政2年)</i></p> <p>日本は、多文化主義のアメリカと比べ、類い希な民族的同一性と日本文化によって、ナショナルアイデンティティの基盤を硬く構成し、日本人としての結束を保持している。だが、我が国は、現在深刻な少子高齢社会を迎え、近い将来、外国人労働者が大量に日本に来る可能性が高い。もしその労働者達が日本に馴染めず、社会の分断を招いた場合、トランプ氏のような政策が支持されるだろう。本発表では、将来の日本のナショナルアイデンティティに対する危機を上記の点から指摘し、日本においてナショナリズムが台頭する可能性について指摘する。</p>
13:00	<p><b>Are the U.S. and China Doomed to Conflict?</b>  <i>宇都宮瑞希(総政2年)・内藤光里・三谷宏明・藤原菜々美・増原亜紀(総政3年)</i></p> <p>China, the second biggest economic power of the world following the U.S., cannot be ignored and has extended its influence on all over the world. Conflicts have been repeated throughout human history due to countries competing for hegemony. Will China and the U.S. repeat it in the same way? Or will they develop new types of international relations? Now, we cannot take our eyes away from the relations between China and the U.S. leading the world. In this research, we will predict what may happen to the U.S.-China relations in the future while understanding recent history between the two countries.</p>
13:30	<p><b>中国の朝鮮戦争への参戦から見る中朝関係に関する研究</b>  <i>于麗雅(総政M1;井上ゼミ)</i></p> <p>近年、北朝鮮の核実験問題や、非武装地帯での地雷爆破事件など朝鮮半島の緊張は高まっており、国際社会から非常に注目されている。中国は隣接する北朝鮮に大きな影響を及ぼす存在であるとよく考えられる。中朝関係は東アジアの国際関係の中でも重要な部分である。中朝両国は「血で塗り固められた同盟」と自称し、緊密な関係にあることを強調してきた。しかし、その内実はどうなのか。関係は美化されているのではないか。もしそうだとすれば、中朝関係の通説的理解には大きな修正が必要であり、現在の中朝関係および東アジアの国際関係の諸問題にも異なるアプローチが求められることになる。こうした関心から、両国の関係が始まって間もない時点で勃発した朝鮮戦争(1950、6～1953、7)の時期の、中朝関係の実態の解明を試みていきたい。</p>

15:00	<p><b>戦後賠償はまだ終わっていない！</b>  <i>大和千咲葵(総政3年;井上ゼミ)・三木一樹・小田健太郎・浅井里沙</i>          今年6月、第2次世界大戦中に日本で過酷な労働を強いられたとして訴えを起こしていた中国の元労働者らに、三菱マテリアル(旧三菱鉱山)が謝罪の表明とともに1人あたり10万円、日本円で170万円を支払うことで和解した。この和解により、これまで解決されていると思われていた日本の戦後賠償が、実際には解決されていないことが改めて明らかになった。この発表では、日本はどのように戦後賠償を行ってきたかを論じ、なぜ現在まで問題が生じているか説明したいと考えている。</p>
15:30	<p><b>アジア統合のかたちを探る～英国EU離脱から見えてくるものとは～</b>  <i>古谷洸樹(総政3年;坂口ゼミ)・朝井悠介・黒岩祥多・小山紘生・清水力・福原咲季・Wang liangyong</i>          近年、イギリスのEU離脱やトランプ氏などの保護主義の台頭によって、これまでの欧米における地域協力・統合に陰りが見え始めている。EUや北米で起こっているこの反動をアジアの統合・協力の将来とどのように関連づけるかが、今後アジアの成長を考える際において重要となるのではないだろうか。そこでEU型・北米型・アジア型の統合モデルを比較し、各モデルの問題点を見つけ出し、評価することによって私たちの考えるアジアとしての統合を提言する。</p>
16:00	<p><b>日本の竹島？ 韓国の竹島？ ～国際司法裁判所で争ってみた～</b>  <i>伊藤七海(総政3年;井上ゼミ)・増原亜樹・小椋誠也・大川万優・芳井ふみ・濱田レイ・谷ロー馬</i>          冷え込む日韓関係。その背景には、歴史問題、領土問題などがある。歴史問題に関しては、昨年の慰安婦合意をはじめ、両国の一定の譲歩が見受けられるが、領土問題はいまだ進展がなく、関係改善の妨げとなっている。本研究では、竹島・独島の領有権を国際司法裁判所で争うと仮定し、両国それぞれの立場を主張した後、国際司法裁判所の前例や判断基準をもとに判決を下す。皆さんは、竹島は日本の領土だと明確な根拠をもとに主張できますか？ なぜ韓国が領有権を主張しているのかわかりますか？ 反日韓国、嫌韓日本といわれる両国であるが、まずお互いの立場を知ることが関係改善の一歩となるであろう。</p>
16:30	<p><b>朝鮮半島統一シミュレーション ～東アジア秩序の大転換～</b>  <i>増原亜樹(総政3年;学生団体P&amp;P)・前山奈央・天野七海・滝尻和子(総政2年)・竹内舞華(総政1年)・小幡メグ</i>          核開発やミサイル発射実験などを繰り返す“厄介な国”、北朝鮮。そして各国は口をそろえて北朝鮮を非難する。しかし、日米韓の同盟関係をはじめ、東アジアの国際秩序は北朝鮮あつてのものとも言える。その前提が崩れたとき、東アジアはどうなってしまうのだろうか。本研究では、東西ドイツ統一を例に、北朝鮮と韓国が統一したと仮定し、それが日本を含めた東アジアに与える影響を総合政策学部ならではの学際的視点、および多種多様なメンバーが学びを共有する私たちP&amp;Pの強みを活かした視点から考える。そして、このような思考実験によって、現代東アジアに横たわる複雑に絡み合った相互関係の視座を提供する。</p>
17:00	<p><b>南シナ海における国際紛争～沿岸国は国際条約をどう解釈するのか～</b>  <i>曹チン茜(総政M1)</i>          南シナ海の重要性は言うまでもない。この海域は太平洋とインド洋を結んだ位置に恵まれ、世界のオイルタンカーの50パーセントはこの海域を通るなど、非常に重要な海上交通ルートである。そればかりではなく、その海域には漁業資源も豊富で、石油や天然ガスなどの海底資源の埋蔵量も膨大と予想されていた。南シナ海問題は現在、多数の勢力が介入し、日々緊張感が高まっている。区域だけではなく、世界中が注目する重大な問題である。南シナ海問題はどのように今の状態に至ったのかという歴史研究の方法によって、「中国とフィリピンとの間の黄岩島(中国称)問題」「中越間の南沙六島の問題」などの具体的な事例をしっかりと分析し、各国の研究を読むことによって、違う立場から、もっと全体的かつ客観的に問題を考える。自分の研究を通じて、あらためて南シナ海の安全現状を見直し、各国の反応と政策を検討し、南シナ海問題に対する国際協力や最善な解決策を探ろうとしている。</p>
17:30	<p><b>国際海洋法からみた南シナ海問題</b>  <i>竹内沙織(総政3年;井上ゼミ)・深谷美優</i>          みなさん、南シナ海問題についてどのくらいご存じだろうか。今年7月に、中華人民共和国が主張する「9段線」が、国際法上認められるかどうかについて争点になった裁判の判決が下された。今日では、中国の南シナ海への海洋進出が、東南アジアにおいて裁判が行われるほど問題となっている。では、中国の南シナ海への海洋進出の何が問題となっているのだろうか。中国が主張している「9段線」とは何か。私達は、南シナ海問題を中国に焦点をあてて、国際海洋法の基本的解釈に基づき詳しく説明していく。</p>
18:00	<p><b>日本と台湾における対人コミュニケーション能力にあたる〇〇の影響</b>  <i>中島卓哉(総政3年;伊佐田ゼミ)・太田一誠・三原大樹・天野健司・森模子・白石誉拓(総政4年)</i>          近年、若者のコミュニケーション能力の低下が危ぶまれている。その原因として、コミュニケーション能力が発達するまでの環境の変化にあると考えた。それは、「核家族化」や「SNSやメール技術によるコミュニケーションが主流になってきていること」等が挙げられる。これらにより現実的な出会いの場、ふれあいの場の減少が若者のコミュニケーション能力の低下を招いていると仮定して、研究した。最終目標は日本と台湾のコミュニケーション能力の差異を比較することであり、その途中経過として、日本でのアンケート調査の結果を発表する。</p>

## 第1日(11月18日)口頭発表E会場(Ⅱ号館204教室)

11:00	<p><b>南海トラフ巨大地震発生後の南海市の避難計画のあり方</b>  <small style="text-align: right;">平口真大(総政3年;照本ゼミ)・寺田圭佑・丸尾千里</small></p> <p>災害時の地域住民の防災意識に関する認識を明らかにすることを目的とする。特に、本研究では実際に現地に赴き、現地の方々とともに参加したワークショップ及び津波避難訓練をもとにして、地域、住民等、個々の果たすべき役割を踏まえつつ、南海トラフ巨大地震への対策について検討する。</p>
11:30	<p><b>超高層建物のモニタリングによる損傷推定法に関する研究</b>  <small style="text-align: right;">孫光宇(総政M1)</small></p> <p>建物の地震による損傷の要因として、変形の繰り返しによる累積損傷が注目されている。東日本大震災の時、被災地から遠く離れた大阪でも、超高層建物の長い揺れが観測された。故に、超高層建物に対し、長周期地震動が部材に損傷を与える可能性が十分にある。現在、モニタリング技術の発達に伴い、各層の層間変形角だけではなく、データを適切に処理することで、部材レベルまでの累積損傷を推定することも可能となると考えられる。本研究は、モニタリングで観測された最大層間変形角と履歴ループから、各部材の累積損傷を被災後短時間に推定する方法を検討する。</p>
12:00	<p><b>和歌山県御坊市における津波避難の住民意識調査～南海トラフ巨大地震に備えて～</b>  <small style="text-align: right;">福嶋克規(総政3年;照本ゼミ)・石川竜也・山田翔大・濱田波輝</small></p> <p>2011年3月11日に発生した東日本大震災での深刻な津波被害を受けた東北地方の教訓を活かすべく、早晚発生するとされている南海トラフ巨大地震に対する津波対策が早急に必要であると考えられる。そこで、世帯構成、勤務状況、出身地の違いに関する訓練に参加している住民の認識の差を明らかにすることを本研究の目的とする。本研究では、私たちが見出した現状での課題に対する対策を考察する。</p>
12:30	<p><b>まちの空きは心の空き～埋めよう空き家と空き店舗～</b>  <small style="text-align: right;">稲本陽太(総政3年;客野ゼミ)・小林菜恵・岩木智穂・合月七海・今川遥奈</small></p> <p>現在、空き家と空き店舗が全国的に増え、社会問題となっている。これらの増加が続けば、防災、防犯、環境衛生上の問題や地域経済の低迷を引き起こす。そこで今回私たちは、兵庫県内において空き家率が上位に位置する西脇市と、私たちにとって身近な三田市の商店街を調査対象とした。このふたつの地域の空き家や空き店舗の現状をフィールドワークや統計データを用いて調査し、GIS等を活用して空き家空き店舗が発生する原因をあらゆる項目から追究していく。そして明らかになった原因に対する対策や解決策を、実際に行われている活動や政策を参考に提案する。</p>
13:00	<p><b>熊本地震における仮設住宅での生活環境に関する調査</b>  <small style="text-align: right;">若宮郭希(総政3年;照本ゼミ)・難波采加・藤賀陽加</small></p> <p>4月14日、16日に発生した熊本地震の被災地で衣食住のすべての面において、困窮を極めている状況になった。瓦礫処理を含めた災害復興もまだ十分に進行している状況ではなく、具体的な復興計画や必要とされる復興住宅の戸数が不透明な状況である。被災地に実際に訪れ、被災者の方々にヒアリング調査を行ったことにより、被災者の方々が抱えている復興に向けた課題が明確になった。本発表では、これらの課題についてヒアリング調査によって分かった結果をもとに、生活再建などの項目において問題点と改善策を提案していく。</p>
13:30	<p><b>みどりが都市に及ぼす影響～単調なコンクリートジャングルに彩りを～</b>  <small style="text-align: right;">みどり 白井麻里(総政3年;客野ゼミ)・池田遥香・原田真由美</small></p> <p>近年、世界的に環境問題が深刻化しており、特に都市部では人口の集中等によるヒートアイランド現象や、それによるゲリラ豪雨の発生が問題視されている。また、街全体がコンクリートジャングルと化し、自然が失われている。そのような状況において、都市部の“みどり”は一層重要性が高まっている。具体的には、みどりの有無による温度変化や、ニューヨークの事例、実際に緑化に取り組んでいる企業の紹介等を行う。以上を踏まえて、環境面と心身面の双方から都市部緑化政策を提案する。</p>

15:00	<b>人間を誘導する音の魅力</b> <p style="text-align: right;">坂口恵里香(総政4年; Tjjerinoゼミ)</p> <p>本発表では、音が人間に与える影響について説明する。人間は日常生活の中で意識、無意識に関わらず、音により感情・行動を誘導させられている。特に人間が誘導されているのは、映像と組み合わせた音の力である。音や音楽1つで人間はその映像の印象を簡単に変えてしまう。また、感情・行動を誘導するのは、娯楽としての音楽だけではなく、声や効果音など我々の生活と切り離せない音も含まれる。これらすべての音は、音楽療法やセラピー、飲食店やショッピングモールといったビジネスのツールとしても大きな役割を担っている。これら音の魅力について具体例を挙げながら説明する。</p>
15:30	<b>五感を通じた空間印象に及ぼす影響～音楽×照明～</b> <p style="text-align: right;">福島千晶(総政3年; 客野ゼミ)・大野彩夏・松田一晟</p> <p>普段、我々は居住空間や商業空間において、「視覚」で捉えられる情報ばかりに意識が向いてしまいがちである。しかし、空間が持つ性質は、五感を単独のものとして感じるのではなく、1つの感覚刺激から、複数の感覚が無意識に引き起こされる知覚現象である“共感覚”という言葉があるように、あらゆる感覚が、受け手の中で同時に、有機的に混ざり合って感じるものであると考えた。そこで、本研究では、「視覚」と「聴覚」から、光と音を空間の構成要素として捉え、照明と音楽が同時に空間に存在した場合に、それぞれが互いにどのように影響し合っ、空間印象を形成しているのかということを経験的実験によって明らかにすることを目的とする。</p>
16:00	<b>メディアアートの可能性～中国の「文芸復興」を目指そう～</b> <p style="text-align: right;">鄭梓カン(総政4年; Tjjerinoゼミ)・黄夢桜</p> <p>20世紀中期からの技術革新で、メディアアートは新しい可能性を生み出している。それは単なる技術にとどまらず、媒体としてアートを表現する方法になっている。また、科学技術との関係が強くなり、コンピュータ技術の進化で人間の知覚認識も変化している。一方、伝統文化の真髄もまた継承していかなければならない。日本は伝統文化を大事にする国として、生活習慣や礼儀作法等で伝統文化を伝承し、最先端技術と融合する社会を作り上げている。それに対して、自分の母国である中国は歴史的経緯から伝統文化への無視と破壊が多いと痛感する。その現状を変え、文芸復興を実現するため、メディアアートの力を借り、日本に見習う必要があるのではないか。</p>
16:30	<b>You can go on a Trip</b> <p style="text-align: right;">黄夢桜(総政4年)・柴田涼平・鄧詩華・平田充代</p> <p>バーチャルリアリティ(VR)という言葉を目にしたことはあるだろうか。Google CardboardやOculus RiftなどのVRメガネを使うことによって、VRを実現する方法は世の中にたくさん存在している。しかし、今までVRを実際体感したことがある人はどのくらいいるだろう。VRは未だ世間に浸透したとは言えないと思われる。そこで、簡単にVR映像を撮影することを可能にする方法を研究しようと考えた。私たちはiPhoneやGoProを活用できるVR撮影を追求し、研究している。世の中に普及されているiPhoneでVR撮影することができたら、バーチャルリアリティがより身近なものとなるだろう。</p>
17:00	<b>スポーツ観戦動機とメディアとの関わり</b> <p style="text-align: right;">林裕也(総政4年; 伊佐田ゼミ)</p> <p>近年、スポーツ観戦における市場は減少傾向にあるものの、SNSやインターネット配信のようなメディアの発達によって、いくつかの競技においての盛り上がりも見受けられ、興味が多種多様に分散化していることが考えられる。そこで、これらの現状を明らかにすることによって、スポーツにおける流行の起こり方について考察し、スポーツ全般への興味、スポーツ観戦動機、メディアとの関わり方とその関連性を明らかにする。アンケート調査の実施・分析を行い、スポーツ観戦マーケティングと関連した提案も行う。</p>
17:30	<b>インターネットテレビの諸現象及び状況</b> <p style="text-align: right;">閻安(総政4年; Tjjerinoゼミ)</p> <p>インターネットテレビの普及により、中国の伝統的なテレビへの影響は日々、大きくなりつつある。伝統的なテレビを見るより、インターネットテレビの利用は、どこでもいつでも見られるおかげで、人々に受けられやすくなる。だが、著作権に関する諸問題をめぐって、訴えられてしまうケースが近年の中国でも起きるようになった。しかし、ネットテレビの出現でテレビの視聴率の低下を緩和することができる。メリットとデメリットと、中国ならではの現状をしっかりと把握し、論じようとする研究である。</p>
18:00	<b>介護者と要介護者のニーズに対応した新たなサービス～SNSを活用して～</b> <p style="text-align: right;">関岡歩実(総政3年; 細見ゼミ)・辰巳裕結・大岡晃子・丸山真優・中村円香・坂本真梨</p> <p>現在の日本は、介護における様々な深刻な問題を抱えている。介護殺人や、介護施設・人員の不足、財政問題など、多岐に渡る。その中でも私達は今回、介護者の人員不足という問題に着目し、それに対し、SNSを活用することで問題を改善しようとしてみた。この研究発表では、介護施設や在宅介護の現状を把握し、さらにSNSで要介護者と介護者の様々のニーズに対応したマッチングサービスを作り出し、総合政策的な視点から、両者に焦点を当てた政策を提言する。</p>

ポスター発表(ディスカッション・タイムは11月18日[金]14:00～15:00)

P1	<p><b>TATの新市場進出戦略～西宮からフィリピンへ～</b>          松田果穂(総政3年;安ゼミ)・杉本快斗・鹿島雅之・弓場脩平・北村優果・古谷滉子・杉本みなみ・松本真里奈・小林潤一郎・山本啓太・後藤里緒・小坂豪・上田明・田中真帆</p> <p>私たち安ゼミは、ネイル用品卸売り業者で業界シェアNo.1を誇る株式会社TAT様の更なる発展のために、新たなビジネス戦略を提案する。ネイル市場が日本国内では飽和状態であることから、海外における新たな市場の開拓を考える。海外の市場の中でも、今後、発展が望めるフィリピンに焦点を置き、新たな流通経路の獲得と技術の輸出を行う。9月に実施したフィリピンでの現地調査の結果を踏まえて、現地のニーズや価値観の違いなどに配慮しつつ、どのようにしてTAT様の質の高いネイル用品・技術の輸出を行うかについて提案する。</p>
P2	<p><b>最高のおもてなし～観光立国に向けた多言語対応～</b>          前田修作(総政3年;宮川ゼミ)・橋本美奈子・埴美慧</p> <p>近年、格安航空会社(LCC)の就航拡大やビザ要件の緩和などによる訪日旅行の容易化、2020年に行われる東京オリンピックを見据えた観光振興により、多くの外国人観光客が日本を訪れるようになった。しかし、外国人観光客が日本を旅行する上での阻害要因として、コミュニケーションや交通標識等の言語に関する問題が長年にわたり指摘されている現状がある。本研究では、外国人対象の日本のガイドブック等の分析や、観光地における実態調査を行い、観光立国に向けた多言語対応の実現に向けて必要と考えられる対策を検討する。</p>
P3	<p><b>SNS型広告専用アプリの開発を目指して</b>          坪井理沙(総政3年;Tijerinoゼミ)・坂上美玲・村松由樹</p> <p>私たちは、広告が閲覧できるアプリケーションの開発を検討している。Instagramのように写真を投稿するSNSや、ネット上にある写真を集めてシェアするピンタレストの広告版というイメージである。その開発を検討するに至ったキュレーションサイトの影響力について研究する。そして、既存の広告の情報をより効果的に消費者に伝えるためには、どうすれば良いのかを検討したい。</p>
P4	<p><b>ARを使用した観光名所の活性化</b>          片ノ坂真由(総政3年;Tijerinoゼミ)・吉富萌々・樋上杏沙花</p> <p>東京オリンピックに先駆け、増えるであろう外国人観光客に向けて日本の良さを明確に伝えるために、ARが一つの手段になる。ほとんどの人がスマートフォンを持っている現代社会だからこそ、ARは有効的な方法であると考えられる。実際に見えている場所からだけでは想像につかない、その土地にまつわる説明を分かりやすく伝えることを目標にする。ターゲットは言葉だけでは理解が難しい子供や、外国人などであり、ARを通して日本の文化を理解してもらいたい。</p>
P5	<p><b>神戸市北区・淡河本陣跡を活用した地域活性化の提案</b>          森田直貴(総政3年;山根ゼミ)・中村未波</p> <p>現代における古民家の空き家問題は深刻である。しかし一方で外国人が抱く日本の街並みへの関心は高い。そこで、古民家の空き家の利用価値はとても高いと考えた。よって、我々は「古民家の利用による地域活性化」をテーマとして考えたい。具体的な対象事例として、神戸市北区淡河町に建つ淡河本陣跡を取り上げる。淡河本陣跡の調査を行い、その建築的特徴を明らかにし、淡河本陣跡を活用した淡河地区の活性化案を提案する。</p>
P6	<p><b>鉄道沿線から見た都市再生の再考～神戸三ノ宮を事例として～</b>          辻本和也(総政M2)</p> <p>神戸市は平成27年9月3日に神戸の都心の未来の姿「将来ビジョン」を策定しました。駅という機能に付随する機能も多様化しており、公共空間としての魅力も求められます。車道や他の交通機関との関わりの中で駅周辺の公共空間の整備は、様々な都市において課題であると考えられます。阪神間における人の流れを、パーソントリップデータを用いて分析し、三ノ宮駅が周囲との都市の中でどのような役割を持つのかを解明し、三ノ宮駅前が求められる空間を理解し、設計提案していきたい。</p>
P7	<p><b>空き家と向き合う</b>          岡本彩(総政3年;斉藤ゼミ)・大堀祐樹・鈴木綾乃・池本菜美子</p> <p>あなたの町に空き家はありますか？ 今、日本中の多くの市町村で空き家が発生しており、地球環境への悪影響が問題視されています。私たちの住む兵庫県でも多く存在しており、それについての様々な対策が取られています。あまり良いイメージではない空き家ですが、資源の再利用や土地の有効活用することで地域活性化に繋げることができるのではないかと私たちは考えました。兵庫県内の特定の市町村の地理、天候、経済状況から人口推移に至るまで調べ、現状を把握し、自分たちなりの空き家問題についての対策案を提示したいと思います。</p>

P8	<p><b>持続可能な郊外住宅とは何か～里山住宅の提案～</b>  <small>和田楓子(総政3年;山根ゼミ)・大西優布梨・阪本真子・矢木美沙子</small></p> <p>現代の日本の住空間においての問題のひとつに、郊外住宅地の衰退がある。少子高齢化の進行や空き家の増加などの問題を抱える郊外住宅地は魅力を失い、若い世代はより新しく、活気のあるニュータウンへと流れてゆくため、古い住宅地はますます衰退していくという負のサイクルである。そのサイクルを断ち切る手段として、私たちは持続可能な郊外住宅地、つまり里山住宅を提案する。資源循環型社会である里山を活用することが、持続可能な郊外住宅地の実現のための重要な要素であると考えられる。神戸市北区で行われている里山住宅博を事例として提示し、里山住宅が問題を解決するのに有効であるか検討する。</p>
P9	<p><b>持続可能な地域活性化の要因は何か</b>  <small>濱田将琴(総政3年;斎藤ゼミ)・喜多直道・向井秀晃・山本大樹・山本裕来</small></p> <p>近年、少子高齢化が進み、多くのまちの人口が減少傾向にあるが、一部には活性化に成功している地域もある。私たちは、その活性化に成功している地域の人口が社会増加傾向にあると定義する。そのように定義した理由は、地域に魅力があるゆえに外部から移住してくる人が増えると考えたからだ。また地域の魅力は市町民所得を参考にして考える。今回は実際に社会増減がプラスの地域を取り上げ、その要因を考えるとともに、人口の社会増加に寄与していると思われる要因が長期的に見ても役割を果たすのかを検討していく。</p>
P10	<p><b>ため池の有効活用に関する研究</b>  <small>梅田朋佳(総政M1)</small></p> <p>兵庫県は日本の中で1番ため池保有数が多い。その中でも播磨地方は特にため池が多い地域とされている。現在農業用水が地下水に変わったことによって、ため池はアオコによる悪臭が発生。また子供が落ちたら危ないことが問題となり、フェンスで囲まれ、人々の生活において負の空間となっている。そこで本研究はため池の多い地域の一つである明石市のため池を取り上げ、ため池の新しい活用方法を再考する。本研究での提案のために、空間構成の方法として近代建築業界における三大巨匠といわれるミース・ファンデル・ローエのユニバーサルスペースを参考にする。</p>
P11	<p><b>丹波立杭焼と連携した竹材消費による里山的森林管理の提案</b>  <small>小林真洋(総政M2)</small></p> <p>篠山市今田周辺地区を代表する丹波立杭焼において、時代の変化に伴う後継者不足、薪に用いられるアカマツ材の減少が深刻化していることがヒアリング調査により明らかとなった。本発表では、ヒアリング調査とアンケート調査の内容を踏まえて、薪材の安定的供給と地域の誇りである自然が共生できる仕組みについて、数値シミュレーションを用いて解決策提案を行いたい。内容としては、竹材を窯元の薪として消費した際に見込める効果について、窯業と林業双方の視点から考察する。</p>
P12	<p><b>過疎地におけるライドシェアの可能性</b>  <small>伊吹紗也子(総政3年)</small></p> <p>近年、日本では少子高齢化・過疎化が進んでいる。過疎地域では人口減少によって公共交通の減便・撤退が余儀なくされており、買い物難民、医療難民といった言葉を聞いたことのある人も多いのではないだろうか。過疎・高齢化地域である京都府京丹後市では、今年の6月からUber JapanのICT技術を活用した配送システムが始められた。このシステムは配車アプリ「Uber」を通じて、あらかじめ登録された地元のドライバーとタクシーを利用したい人をマッチングさせる仕組みである。Uberは過疎地の新たな交通手段となりえるのか、現地でのヒアリング調査をもとに現状・課題を分析する。</p>
P13	<p><b>複数回の地震動を受ける地域における建物被害予測 ～2016年熊本地震における益城町での建物実被害との比較～</b>  <small>増田幸枝(兵庫県大シミュレーション学研究所M1)・前田華伊</small></p> <p>今後発生すると予測されている南海トラフ地震や首都直下地震などの大地震に対して、建物被害戸数を減らすために対策をとる必要がある。地震動による建物被害数を予測するための1つの手法として、地理情報システムであるArcGISと木造家屋全壊率テーブルを用いて、複数回の地震動を受ける地域を対象に建物被害予測を実施する。今回、2016年4月に発生した平成28年熊本地震での建物の実被害と建物被害予測を比較する。</p>
P14	<p><b>熊本地震の被災地を訪問して</b>  <small>酒井美菜子(総政4年;長峯ゼミ)・井口史菜・山崎麻衣・宮崎志乃・鷺尾七海・北野佑佳・三木万裕佳・土井菜都子・前谷成美・江戸智哉・金鉄龍・光平勇貴・日高祐太郎・山下雄平</small></p> <p>震災におけるボランティアの重要性について発表する。今年の夏、わたしたちはゼミ活動の一貫として熊本ボランティアに参加し、被災地見学と南阿蘇鉄道清掃ボランティアを行った。そこで実際に見て、聞いて、感じた被災地の現状・被災者の思いを伝え、わたしたちに求められるボランティアへの向き合い方を考える。この発表で、熊本大震災や震災、ボランティア等について、すこしでも考えるきっかけの種を撒くことを狙いとしたい。</p>

P15	<p><b>ドイツエアランゲン市と西宮市を事例とする市街地における太陽光発電設置の地理的要因の分析とそのポテンシャル評価 ～GISによる空間統計分析を用いて～</b>  <small>辻田百合菜(総政M2)</small></p> <p>研究の最終的な目標は、市街地への効果的な屋上設置型太陽光発電の設置を推進させることである。そこで、日本に先駆けてエネルギー自立都市を目指して取り組んでいるドイツ・バイエルン州エアランゲン市を対象とし、太陽光発電装置の設置登録データを元に、その設置箇所や動向、設置されている建物用途、土地利用に関する調査を行い、統計的に解析し、設置の影響要因等について考察した。また、兵庫県西宮市を対象とし、航空写真より設置状況を目視により取得し、建物レベルでの分析を行い、設置要因を明らかにした。</p>
P16	<p><b>一人暮らしの大学生にとって三田市は住みやすいのか</b>  <small>木本修輔(総政3年;安高ゼミ)・水間春希・宮川萌恵子</small></p> <p>三田市が一人暮らしの大学生にとって住みやすい町なのかを、関西学院大学の学生を対象にアンケート調査を行った。まず最初に、三田市に住んでいる学生と兵庫県神戸市に住んでいる学生を対象に、大学生の一人暮らしに良いと感じられる環境についてのアンケートを行い、その2つの結果を比較して、三田市が大学生にとって住みやすい町なのかを検証した。検証結果を元に、三田市がより大学生にとって住みやすい町にするにはどう改善すればよいのかを提案する。</p>
P17	<p><b>あなたの傘、そんなに必要？ ～傘の大量生産・大量消費・大量廃棄について～</b>  <small>西田郁実(総政3年;宮川ゼミ)・園田陽加</small></p> <p>日本における傘の消費量は、諸外国と比較して多いとされており、近年では廃棄物問題としても注目されている。特に、どこでも安価で購入できるビニール傘は、消費量の約6割をしめしているとされ、その問題の中心にある存在といえる。本研究では、全国各地で実施されている傘の廃棄物を減量するための対策、たとえば、「善意の傘」などについて、現状とそれらが抱えている課題を検証する。さらに、傘の利用の実態についても調査を行い、傘に関わる大量生産・大量消費・大量廃棄の問題について、今後のあり方を考察する。</p>
P18	<p><b>マレーシアの事例からみる多民族の共生</b>  <small>重兼里衣子(総政3年;山根ゼミ)・古川輝・大西慧・曾我棕子・石川周平</small></p> <p>私たちはマレーシアにみる多民族国家の在り方をテーマに設定した。これは多民族国家であるマレーシアについて調査することが、日本の国際化に対応する手助けとなると考えたためである。調査方法は実際にマレーシアのイポー市へ行き、コミュニティの形成や多民族の共生の様子や、それぞれの建物の特徴等から分析する。そして地図上で現地調査の結果を視覚化し、都市の変遷について歴史的要因も交えながらいかにして現在の都市構成をとるようになったのか、実際にイポーを歩いた印象を元に考察する。</p>
P19	<p><b>日本人の国際観</b>  <small>中尾望結(北摂三田高2年)・阪本敦美・藤原菜々美</small></p> <p>「異文化理解」とは何なのか。あるホームページに「異文化理解」とは「違い」を見つめることである、と掲載されており、私たちはこの一文に日本人の国際観が表れていると感じました。日本人の国際観とはどういうものなのか。「日本人」と「外国人」として区別してしまう、外国人コンプレックスともいえるものが、日本人の国際観を広げるのを阻止する壁になっているのではないか。この壁を崩すにはどうすべきなのか…。本日はよろしく申し上げます。</p>
P20	<p><b>言語学習におけるアニメーション・漫画の利用～外国人の日本語学習～</b>  <small>藤川茜(総政3年;Tijerinoゼミ)・尾崎莉子</small></p> <p>現在、日本語を学んでいる外国人は2012年、136の国と地域で400万人に迫ろうとしている。これは語学教育を目的としている学校や機関で学んでいる人の数であり、独学者や文化交流で学んでいる人は含まれていない。よって日本語の学習者は400万人を大きく超えて存在していると考えられる。そこで問題になってくるのは、どのようにして外国人学習者に日本語を学んでもらうかである。しかし、教材不足や学習者不熱心など課題が山積している。そこで私たちは諸外国でも人気の高い日本のアニメ、漫画といったものを組み込んだ日本語教育プログラムの有用性について考察したい。</p>
P21	<p><b>日本語における単語連鎖とはどのようなものか？</b>  <small>兼田誠(総政4年)・成子航平・前田幸輝</small></p> <p>単語連鎖は必ず出てくる。単語連鎖とは、良く使われる単語の組み合わせのことである。単語連鎖とは、日常で頻出する単語のつながりのことを指す。しかし日本語の研究においては、特に口語的な日本語についての研究が少ない。この論文の目的は、少ない日本語の研究についての足りないところを補うためである。そのため西洋で発表された研究結果をもとに仮説をたて、日本語と英語を比較していく。論文の構造としては、まず専門用語の定義について述べる。そして、データ収集の手法などを説明し、その結果などを分析して、最後に考えを述べる。</p>

P22	<p><b>健康寿命の決定要因は何か？～生活習慣病の予防策を提案する～</b> 佐伯民江(総政M2)</p> <p>「WHO憲章」に定義されている「健康とは肉体的、精神的、社会的に良好な状態」という3つの分野は、研究でも、応用でもバラバラに発展してきた。1995年になってスピリチュアリティがQOLに加えられた。これらを総体的に、健康に生きるという視点から、生活習慣病の予防策を追求した論文はまだ見当たらない。健康寿命を延ばすことと、環境に優しい社会(グリーン経済:地球サミット、2012)の追究は同じ地平にあるという仮説のもと、論文研究、実態調査を行い、健康寿命の決定要因を解明することで、生活習慣病の予防策を提案することを目的とする。</p>
P23	<p><b>日本人の食生活の変化に伴う健康問題、および身体的変化</b> 中田知志(総政3年;安高ゼミ)・山下勇志・中田卓宏</p> <p>今日、日本の社会では、食に対する関心が非常に高まりつつある。実際に、食品業界では健康ブームと騒がれるなど、世の中の流れが顕著に現れている。その理由として、子供たちの心身の健全な発育の促進、また肥満や糖尿病といった生活習慣病にかかる人の割合が年々増加しているということが例に挙げられる。そこで我々は、具体的に日本人の食生活がどのように移り変わってきたのか、現在の状況と過去を比較する。その結果に伴う身体的な変化、健康問題等を取り上げ、考察し、またその解決策を模索する。</p>
P24	<p><b>恋せよ、若者！～絶食時代の恋愛事情～</b> 柏文太(総政3年;宮川ゼミ)・清水ちひろ・ゾウ・インジュン</p> <p>近年、日本では、少子化が深刻な問題となっている。少子化は、社会保障制度と関わる重要な問題であり、その要因としては、晩婚化・未婚化、女性の社会進出などが指摘されている。これらの要因と関わって、近年では、若者の恋愛離れが注目されるようになってきている。本研究では、若者の恋愛観・結婚観についてアンケート調査を行い、若者の恋愛離れの実態や彼らの築きたい家庭の将来像を明らかにすることを試みる。さらに、回答結果から、恋愛離れの要因や今後必要と考えられる少子化対策について考察する。</p>
P25	<p><b>親の養育態度と子供の非行～子供の過ちって親の責任なん？～</b> 若菜理彩(総政3年;李ゼミ)三回生・前田裕子・瀬渡まりこ・林杏奈・森下崇弘</p> <p>近年、悪質な少年犯罪や若者の非行、マナー違反がメディアによく取り上げられている。このような場合、「親の教育や家庭環境の責任だ」という声をよく耳にすることが多い。果たしてそれは実際に親の責任にしてしまっているのか。安定した親子関係の構築のために、これから家族を築くであろう大学生が家族問題を意識することは大切である。この研究では子どもの思考、行為を研究の対象としており、その思考や行為の形成に、親の養育態度が関係していることを導く。</p>
P26	<p><b>自殺の因果関係の研究～都道府県のデータをもとに検証～</b> 加藤千明(総政4年;李ゼミ)</p> <p>WHOの発表によると、今日世界的に自殺は問題になってきており、2012年の自殺者数は80万4000人、10万人当たりの自殺死亡者率は11.4人と推定されている。しかし、同年の日本の自殺率はそれを1.6倍上回り、18.5人とされている(世界保健機関[WHO]、2014)。そこで、本研究では日本社会での自殺の関連要因を探索することを目的とし、統計解析ソフトウェアSPSSを用いて分析を行う。そして、その分析結果および考察、そして自殺予防に資する提言を行いたい。</p>
P27	<p><b>観光客に脅かされる、世界遺産～日本における登録第一号 屋久島の事例～</b> 小林真弥美(総政3年;今井ゼミ)・加茂七海</p> <p>世界遺産と聞けばどんなものを想像し、また、それを見たいと思うだろうか。屋久島は、多様な植生の垂直分布や、樹齢数千年におよぶ屋久杉など特異な森林生態系を有することが評価され、世界自然遺産に登録された。しかし、登録により観光客が激増し、屋久島の自然環境が破壊されるという問題が浮上している。後世に残す遺産(宝)であるはずの世界遺産が、現世の人々によってその姿を変えられつつある。本研究では、現在屋久島で行われている取り組みに関する現地視察・聞き取り調査の結果から、新しい解決策を提案する。</p>
P28	<p><b>日本におけるペットの店頭販売について</b> 魚谷早希(総政3年;今井ゼミ)・平畑成美・奥野友貴</p> <p>日本における生体の店頭陳列販売の現状とその背景、そして利益追求のためだけに行われる生体繁殖についての問題を、動物愛護および管理の観点からヨーロッパの動物愛護先進国と比較する。そして、現在の日本におけるこれらの問題を解決するための調査結果と提案を発表する。</p>

P29	<p><b>神戸市を中心とするイノシシ問題に対する意識調査</b>  森上広太郎(総政3年;安高ゼミ)・伊藤千遥・高品美沙</p> <p>イノシシへの餌付け等を禁止する条例、通称イノシシ条例について、神戸市を中心として住民にアンケート調査を行い、条例施行直後、約10年前の結果と比較する。その結果から、イノシシ条例が実際に人々の意識を変えるだけの効力があるのかを分析する。イノシシ条例は平成26年に罰則規定が追加されており、少なからずイノシシ出没地域において、餌付け、ゴミ出しの方法に注意する等の意識の変化は期待できる。しかし、状況は常に変化しており、条例に更なる規定を追加する等、新たな対策が必要であるかを考察する。</p>
P30	<p><b>外来種に対するこれからの政策</b>  河杉一樹(総政3年;今井ゼミ)・太田寛人・段城里佳</p> <p>現在滋賀県では、水産資源の魚類を食害する他、琵琶湖の生態系を攪乱する有害な魚類として、外来魚を捉え、駆除を進めている。近年は、人命に限らず動植物など全ての生命を対処と対象にする、生命倫理の考え方が人びとの支持を得るようになった。発表者らは、琵琶湖の生態系を維持するという目的のために、生命倫理を十分に考慮しない滋賀県の政策に疑問を感じる。外来魚類が琵琶湖に導入されて以降琵琶湖の生態系は変化を遂げており、実態を正確に把握した上で、外来魚に関わる政策を立案・実施する必要があるからである。</p>
P31	<p><b>KinectによるVirtual Mirrorの応用</b>  福岡翼(総政3年;Tijerinoゼミ)・岩崎大貴</p> <p>Kinect for Windowsを使用したVirtual Mirrorの応用の提案。主な方法としてはアパレル業界におけるヴァーチャル試着体験があげられる。このヴァーチャル試着を導入することによるメリット、デメリットの提示。異業界との連携を考えた可能性を考える。</p>
P32	<p><b>AR(拡張現実)利用による観光事業</b>  西地智也(総政3年)</p> <p>現在、ARの技術は目覚ましい発展をとげ、ゲームや地図、観光で多くの利用が検討されるようになった。中でも特に観光においての利用が期待されるニュースをよく目にするようになった。また2020年の東京オリンピックにも活用が期待されている。これらを踏まえてARの技術は、観光という産業において有効な力を発揮できるのか。また現時点でのARの技術がどの程度やどのような目的で利用されているのかを調査し、現状と課題を判断。またその課題にどのようにしてアプローチしていくかを考えたい。</p>
P33	<p><b>音の影響力～音の持つ力とは？～</b>  江坂孝祐(総政3年;Tijerinoゼミ)</p> <p>私たちは、様々な音と共に生活している。音と聞くと、クラシックなどといった音楽やBGM、または効果音をイメージする人が多いかもしれないが、朝目覚めたときの鳥のさえずりや車の排気音、スマートフォンの着信音など、私たちは生活をしている中で、実際とても多くの音を聴いている。現在、音は人間の視覚や行動などに影響を及ぼすという研究結果が多くでてきている。今回のポスター発表では、様々な音の研究の事例を挙げながら、音の持つ力について説明し、今後音を利用してどのようなことができるのかについて考察していく。</p>
P34	<p><b>オブジェクト指向プログラムを用いたMVCフレームワークの活用</b>  竹内一将(総政3年;Tijerinoゼミ)</p> <p>高度情報化社会が進む今日において、もはやITを無視して企画やプロジェクトを行うことは不可能と言っても過言ではない。社会に出て企画を考える側になった場合、企画者という立場からではなく、技術者という立場からも、プラスαとして企画を考えることができるということは心強いことだと考えます。今回の発表では、現代で主流となっているオブジェクト指向プログラムを併用したMVCフレームワーク開発についてリサーチしていきたいと思えます。</p>

## 自由形式 第1日(11月18日)

自由形式 1	II-105  11:00~ 16:00	<p><b>まもり・つなぐ「阿蘇の草原」～草原再生ボランティア活動報告～</b>  <small>福永麻理子(総政4年;佐山ゼミ)・中崎翼・大江菜々花・渡谷健太・小椋拓真(総政3年)</small></p> <p>みなさんは熊本県阿蘇に行ったことがありますか。阿蘇には平安時代から千年続く、美しい草原が広がっています。現在はボランティアの手によって維持され、受け継がれており、具体的には夏に“輪地切り”(草刈り)と、冬に“野焼き”(草原を燃やす作業)が行われています。佐山ゼミ阿蘇実習班は草原再生ボランティアに参加し、12年目を迎えました。今回の発表では9月に3泊4日で参加した輪地切りの様子や、草原の現状・魅力をお伝えできればと思います。</p>
自由形式 2	II-107  10:00~ 16:00	<p><b>発展途上国のこどもたちのために私たちができること～フィリピンフィールドワークの経験を通して～</b>  <small>木村友紀(総政3年;小西ゼミ)・浅井沙也佳・本江文乃・村上夏希・前山奈央・澁谷航・浦野紗友美・中西美南海・守本美咲・南部真鈴・巖本敏照・上嶋真子・立川愛夕</small></p> <p>「発展途上国の貧困地域で暮らすこどもたちの日常」について、どのくらい知っていますか？ 私たち小西ゼミは2016年夏、フィリピンでフィールドワークを行いました。都市部の貧困地域で、1日1食だけで生活するゴミ山に住むこどもや、路上で生活を送るこどもと関わり、貧困の現実を目の当たりにしました。本日はフィリピンの貧困の現状とフィールドワークの活動報告についての発表を行います。発展途上国の現状や国際協力に興味のある方は是非ご参加下さい。貧困地域で暮らすこどもたちの為に、「私たちにできること」を一緒に考えましょう。</p>
自由形式 3	II-109  12:00~ 16:00	<p><b>2016年度 白山麓実習の報告と今後の展望</b>  <small>芳田彩希(総政3年;佐山ゼミ)・辻伽名子・前田和輝・垣内稍圭</small></p> <p>石川県白山市(白山麓)の地域活性化を目的としたフィールドワーク『白山麓実習』は、今年度でスタートから7年目を迎えた。今年度の実習では、『未来里地構想2年間の振り返り』、『クルマを使ったコミュニティビジネスの提案』、環境教育イベントである『オキナグサ キッズマイスタープログラム 第二弾』を実施した。リサーチ・フェアでは、今年度の取り組み、実習を通して感じられたフィールドワークの意義、さらに来年に向けての展望について報告する。</p>
自由形式 4	II号館北 側入口付 近(野外)  14:00~ 16:00	<p><b>テンセグリティ構造の建築空間への可能性</b>  <small>山本凌平(総政3年;鬼丸ゼミ)・広江祥和・山崎道郎・奥野恒・楊思蕾・浜村ひかり・宮本優衣・石橋由貴・阿曾一晃・大美賀昭好</small></p> <p>テンセグリティとは、「非接触で不連続な圧縮材が張力の海に浮かぶ自碇式システム」のことである。この構造の圧縮部材はお互いに接触しない代わりに、ひもやワイヤーなどの引張部材によって空中に保持することができる。今回は、そのテンセグリティ構造を用いた、ヒューマンスケールの作品を展示する。テンセグリティ構造では、張力と結合を組み合わせることで、モニュメントを造ることに活躍しているが、現状では多く利用されているわけではない。そこで、テンセグリティ構造の建築分野における利用の可能性について検討したい。</p>
自由形式 5	II-112  11:00~ 12:00	<p><b>Apple Watchの私生活への活用</b>  <small>鄧詩華(総政4年)・柿内遼</small></p> <p>現在スマートフォンが普及し、多くの人々が直感的に電子機器を操作できるようになった中で、スマートウォッチと呼ばれる時計型の電子機器も登場した。ある行動から別の行動に移る際にストレスを感じさせにくい、という意味のシームレスという言葉も誕生した。電子機器が進化し新たな機器が誕生する中で、Apple Watchはiphoneやmacbookなど、多くの人に使われている機器を生み出したApple社から発売されたものであるため期待された。ここでは、スマートウォッチの基本的な機能の説明から始まり、Apple Watchを具体的にどう私生活に活かせる可能性があるのかについて発表する。</p>
自由形式 6	II-112  13:00~ 13:30	<p><b>ゲームについての日中比較</b>  <small>林駿豪(総政3年)</small></p> <p>ゲームというのは人を喜ばせるものであり、つまらない現実世界で我々に楽しさを与えてくれています。近年、ゲームに関する技術が発展するにつれて、ゲームの種類が増えている上に、質も向上しています。この発表では、日本人と中国人のゲームの好みの違いについて、また、その裏に潜んでいる背景を紹介したいと思います。</p>
自由形式 7	II-112  14:00~ 14:30	<p><b>訪日外国人向けの観光アプリの考察</b>  <small>山本大貴(総政4年;Tijerinoゼミ)・多田義崇・宮崎涼・松濤魁</small></p> <p>大阪にくる外国人観光客は年々増加している。だが、彼らは大阪で移動、滞在する際に困ることが多々ある。それらを解決するために、我々はパンフレット作りではなく、ICTの面から外国人観光客向けのアプリを解決策として提示する。このアプリでは実際に外国人観光客にインタビューして、困った点を少しでも解決できるような機能を盛り込んでいる。さらに開発しただけでは意味がないため、アプリを実際にどのように外国人観光客に使ってもらうのかを示す。</p>
自由形式 8	II-112  16:00~ 16:30	<p><b>3Dプリンターを使ったストップモーションアニメーション</b>  <small>松岡芳佳(総政4年)・神田帆南・大瀬戸里奈</small></p> <p>コンピュータ上で作った設計図をもとに、3次元の物を作り出す装置「3Dプリンター」が今、モノづくりの現場に革命を起こす技術として世界中で注目されている。最近では家庭用の3Dプリンターも多く存在し、スポーツカーも拳銃も自分で作れるとさえ言われている。様々な使い道が存在する中で、本研究ではこの可能性を映像制作へと活かし、ショートムービーを制作する活動を行った。3Dプリンターの可能性とストップモーションアニメーションによる撮影方法で撮られた映像の温かみを、ぜひご覧になってください。</p>

## 第2日(11月19日[土])口頭発表A会場(Ⅱ号館101教室)

10:00	<p><b>カンボジアの今</b></p> <p style="text-align: right;">浅田佑太郎(関西学院高2年)・三木まりな・稲本花香・古澤凜</p> <p>私たちは、夏休みに研修で行ったカンボジアについて発表します。カンボジアではつい数十年前まで、戦争やポル・ポトによる独裁政治などが行われていました。現在はそのようなことはなく平和で、アンコールワットなどの世界遺産もあり、観光に人気な国ですが、治安は良いとは言えません。やはりスリや盗難などといったことは頻繁に起こります。また、天候は雨季と乾季があり、決して過ごしやすいというわけでもありません。そのような国であるカンボジアを今回、私たちは夏休みの経験を踏まえて「カンボジアのいま」というテーマで発表しようと思います。</p>
10:30	<p><b>中国における低所得者向けの住宅政策</b></p> <p style="text-align: right;">齊派(総政M1)</p> <p>中国では、改革開放以来、経済が急速的に発展するとともに、不動産市場が大きく成長してきた。しかし、近年の不動産価格の高騰によって、中低所得層の住宅困難がますます顕著化している。政府は、一連の不動産価格上昇を抑止する政策を打ち出したが、根本的に住宅供給問題は解決していない。2007年以来、中国政府は、公的資金による中低所得者に直接供給できる保障性住宅政策を実施してきた。北京を事例として、中国の保障性住宅政策の内容とその特徴を明らかにし、実際に存在する問題を調査および考察し、その解決方法を明らかにする。</p>
11:00	<p><b>女性の自立支援～カンボジア・フィールドワークの経験から学んだこと～</b></p> <p style="text-align: right;">小林美澄(関西学院高2年)・長谷川和奏</p> <p>私たちのテーマは女性の自立支援です。女性は社会開発及び経済の重要な担い手にも関わらず、教育や就業など様々な面で弱い立場におかれています。女性の自立支援を行うことは女性の社会的地位の改善だけではなく、貧困や子供に関わる問題を解決することにも繋がります。女性の自立支援を仕事と教育の2つの面から考えます。女性たちに必要なのは教育です。読み書き計算だけでなく、将来を見据えた様々な教育も必要です。女性たちが自立する為に、継続して教育を受けられる環境づくりや、クリアな雇用先で働ける支援が必要だと考えます。</p>
11:30	<p><b>女性をめぐる諸問題</b></p> <p style="text-align: right;">北島眉子(法4年)・時本采菜・栗牧優美花・永野小雪</p> <p>男女平等とは、男女に共通の機会を与えることか、それとも男女の特性に応じた機会を与えるべきなのか、その歴史について考える。今までの歴史を振り返ると教育、労働などあらゆる場面で女性に対して異なる扱いがなされ、女性の地位は男性と比べて低いものであった。そこから男女平等についてさまざまに議論がなされてきたが、現在に至るまでその経緯を考える。</p>
12:00	<p><b>カンボジアの人々の暮らし</b></p> <p style="text-align: right;">西田千鶴(関西学院高2年)・千葉郁実・豊後雅子</p> <p>スーパーグローバルハイスクール事業の1つとして、カンボジアでフィールドワークを行った。高校2年生である自分たちにとって、カンボジアは教科書を通してしか知り得なかった世界だった。そのような国を訪れるという貴重な経験をした私たちだからこそ、伝えられることがある。日本とは異なった、便利とは言えない交通網、ちぐはぐなネット環境、流れないトイレ。田舎の状況は更に酷く、本当に1つの国なのか疑うほど、都市部と農村部は違った。様々な違いを肌で感じた日々。私たちの特別な1週間を、今から伝えたい。</p>

## 第2日(11月19日)口頭発表B会場(Ⅱ号館102教室)

10:00	<p><b>三田市におけるコンビニの新サービス戦略の提案</b>  <i>木元ひとみ(総政3年)・古川ゼミ・松島涼・神保真由・林原和也・南果歩・河野和子</i></p> <p>今回のリサーチフェアで私たちのグループが発表する内容は、三田市に新しくコンビニを出店する際に、新しく作るサービスについての提案です。現在コンビニでは全国的に同じ商品を販売しているため、商品で他社コンビニと差別化するには頭打ちになっています。そこで私たちは三田市に合ったサービスを考えることで、コンビニ市場における差別化を図り、売り上げを伸ばすことを考えました。そして三田市を例として、その案をアンケートや参考文献を使って統計的に分析し、日本のどのコンビニ会社の戦略に最も適しているか考察します。</p>
10:30	<p><b>地域における外国人児童に対する日本語教育充実のための提言          ～群馬県太田市と愛知県の比較～</b>  <i>白神詩織(兵庫高2年)・山内晃生</i></p> <p>少子高齢化に伴う労働人口減少のなか、日本では外国人労働者の人数が年々増加している。またそれにより、外国人児童・生徒の数も増えていっている。この研究は、群馬県太田市と愛知県を例に取り、外国人児童に対する日本語教育の在り方の改善を提言するものである。この地域に限らず、全国的に日本語を指導する教員の数は、一人ひとりのレベルにあった教育を十分に与えるには未だ足りていない。私たちは、その対策として語学を学ぶ大学生や、児童への教育の仕方を学ぶ大学生などによる学生ボランティアを提案する。</p>
11:00	<p><b>地域アイデンティティの創出～サウンド・スケープの視点から～</b>  <i>村田真悟(総政M1)</i></p> <p>近年、地域活性化と銘打ち、多くの地方がまちづくりに取り組んでいるが、景観整備等による視覚経験を追求したものが多く。そこで、新たな意識導入として聴覚、音に着目して「より良い聴覚経験の追求」を目指したい。「サウンド・スケープ」という、音の風景を環境や文化の一部として位置付け、人間との関係性を紐解いていく概念がある。これに倣い、その地域固有の音を文化資源として捉え、新たな地域アイデンティティの創出を考察する。本研究は身の周りの環境に意識を向け、自分たちの住むまちをより深く知ってもらうことを目的とし、研究対象地域を兵庫県丹波市柏原町とする。</p>
11:30	<p><b>目力看板を超えろ！～三宮の不法駐輪から考える～</b>  <i>雨宮航平(御影高2年)・垣内優太・谷口美雨・向井諒</i></p> <p>神戸の中心地であり、多くの人が行きかう三宮。その中には自転車を利用する人も多く、中には止めてはいけない所に自転車を駐輪する、いわゆる不法駐輪をする人もいます。神戸市はこれに対し、独自の対策としていくつかの看板やポスターを設置していました。しかし、これらには効果にばらつきがあり、また、問題点のある看板もありました。私たちは以上のことから、より効果のある看板を提案し、三宮の不法駐輪をなくしたいと考えました。</p>
12:00	<p><b>奈良県の農業政策</b>  <i>前川麻里子(法4年)・長田倫幸(法1年)・金成炫・森村友哉(法3年)・橋本泰造</i></p> <p>日本の若者の多くは都市部で就職し、地方で我々の食を支える農業に携わる者の数は減少し、高齢化が進む。中でも奈良県は認定農業者の数が全国47位で、耕作放棄地率が近畿府県の中で最も低い。この奈良県の農業政策を考えることは、全国的な農業の担い手不足などの問題の解決にもつながる。奈良県や農林水産省による調査の分析や農業特区である兵庫県養父市の事例を参考に、奈良県がすでに行っている政策の評価や、さらにどういった政策が実施可能かを考察する。我々は、農業の担い手の中でも女性の担い手の確保、育成が重要だと考えた。</p>
12:30	<p><b>『顔なじみ』の関係をつくる～高校生と震災～</b>  <i>廣岡季陽里(御影高2年)・泉谷美織・榎田慶明・水野圭太</i></p> <p>私たちが通う兵庫県立御影高校は21年前、阪神淡路大震災のとき避難所になりました。私たちは直接震災を体験してはいませんが、最近起こった熊本地震の報道で、避難所で高校生として何ができるかを考えました。そして研究を行う中で「地域コミュニティ」がキーワードとなっていることに気づきました。そこから問題を解決するために2つの問いを立て、高校生の視点から地域コミュニティに高校生がどのように関わっていけるかを提案します。</p>

## 第2日(11月19日[土])口頭発表C会場(Ⅱ号館111教室)

10:00	<p><b>戦後日本と私たちの家族</b>  <i>上田勇輝(総政3年; 柴山ゼミ)・久保兼太郎・鶴岡明季・西秋直志・新田浩貴・三宅亜希香</i>          今日、安倍政権を中心として憲法改正を行い、国のかたちを変更しようとする動きがある。これは、国家の再定義を意味する。しかし、現状の国のあり方に対する確かな認識なしに、これを再定義することはできないのではないか。現在へと続く日本国は、大日本帝国の崩壊とともに始まった。両体制の違いは人々の生活にどのような影響を与えたのか。本研究は、市井の人々によるファミリーヒストリーから帝国日本と民主日本を比較することによって、よりリアルで詳細な戦後日本の価値を明らかにしようとするものである。戦争体験や国内冷戦を経て神話化された戦後民主主義に対し、現に人々の生活がどのように向上し、魅力的な物語を提示し得たのか、といった実際的な観点から分析を行うことで、「今日の日本」とは何なのかを考える。</p>
10:30	<p><b>戦時中の規制～言葉と身体の観点から～</b>  <i>山本奈実(法4年)・大森康太郎・児玉祐依・八尋優理</i>          第二次世界大戦中、日本政府は人々に対して様々な規制を課した。本発表では、言葉と身体の二方面から、人々がどのように規制され規律されていったかということについて明らかにする。言葉という観点からは、方言や報道への規制がどのようになされていたかを明らかにする。身体という観点からは、戦時中の体育である「体錬科」が、子どもに対してどのような影響を与えたかについて述べる。その上で、戦時中の規制がどういう意義を持っていたかということ再検証する。</p>
11:00	<p><b>金融緩和が期待物価に与えるアナウンスメント効果</b>  <i>吉田真理子(総政3年; 亀田ゼミ)・野口浩路・ユンスジョン</i>          日本では1990年初頭のバブル崩壊により、長期間に及ぶデフレに陥り、不況が続いている。そこで、日本銀行は2013年に量的・質的金融緩和政策を導入した。長年のデフレにより人々に根付いたデフレマインドを解消するために、この政策では2%の物価安定目標を掲げるとともに、金融緩和に関する積極的なアナウンスを行い、インフレ期待形成に働きかけようとしている。しかし、2%の物価安定目標は未だに達成されていない。そこでわれわれは、日本銀行によるアナウンスはインフレ期待に対して効果的に働いているかどうかをテキストマイニングを用いて検証する。</p>
11:30	<p><b>なにが日本の長期景気後退を引き起こしたか? ～動学的確率的一般均衡モデルを用いた実証分析～</b>  <i>葦原彩人(総政M1)</i>          1990年以降、日本経済は長期景気後退を経験しました。その影響は非常に大きく、さまざまな問題を引き起こしました。我々にとって関係のある雇用に目を向けると、有効求人倍率が下がり続け、2000年3月卒では0.99と1を割りました(2017年3月卒は1.74)。これは、求職者全員が職を選ばずに就職活動をしたとしても、必ず就職できない人が生まれるということです。また、自殺者数もこの時期(正確には1998年)から一気に増加をし始めました。このように景気悪化は我々の生活に大きな負の影響を与えます。今ではその影響は和らぎつつありますが、これからまた同じような不況が起こらないとも限りません。それにもかかわらず、この不況の原因についてはまだ明らかになっていません。本発表では、最新のマクロ経済学モデルを用いて、この不況の原因を分析します。</p>
12:00	<p><b>これからの神戸三田キャンパスのあり方</b>  <i>中岡航太郎(総政1年)</i>          皆さんは神戸三田キャンパスのことは好きですか? それとも上ヶ原に行けたらなあ、なんて思っていないですか? 僕たち一回生が入学して約半年。ほぼ毎日通うことから神戸三田キャンパスの利点も問題点もいろいろ目にしてきました。今年で21年目となる神戸三田キャンパス。アットホームが売りのキャンパスですが、学生の声が本当に教員や職員に伝わっているのか。普段学生が抱えているものを拾い上げて代弁者として問題点、解決策を提言することで、もっと研究や学生活動が行いやすいキャンパスになればと思います。発表させていただきます。</p>

## 第2日(11月19日[土])口頭発表D会場(Ⅱ号館201教室)

10:00	<p><b>沖縄普天間飛行場の県外移設は軍事学的側面から考察した上で可能かどうか</b>  <i>志和将広(総政3年;小池ゼミ)・藤原鼓・春有咲・永井春奈・石田依子・奥田瑞稀・中田詩織・松下蒼・井上紗希・車谷紗央里・内藤秀悟・塘田捷人</i></p> <p>「沖縄普天間飛行場の県外移設は可能か？」沖縄普天間飛行場の移設問題は、昨今混迷を極めている。沖縄では普天間移設飛行場の県外移設を目指す「オール沖縄」など野党が、県内の衆議院小選挙区、参議院選挙区の計6議席を独占しており、県外移設の姿勢をより一層鮮明にしている。一方で、現政権は「辺野古が唯一の解決策」として、県内移設の強行姿勢を崩していない。本当に、現政権が掲げるように「辺野古が唯一の解決策」なのだろうか？沖縄に駐留している在日米軍海兵隊に着目し、その軍事的側面から普天間飛行場が県外移設の可能性を軍事学的な要素を軸に検証する。</p>
10:30	<p><b>開発途上国の飢餓状態を改善するために～有機農業は農業従事者を救えるか～</b>  <i>織田郁公子(千里国際高3年)</i></p> <p>現在、世界中の人々が健康な生活を送るために、必要な栄養分を摂取できる十分な食糧が生産されているにもかかわらず、世界の飢餓問題は解決していない。また途上国では、食糧を生産する農業に従事しながら、体に見合った栄養を十分に摂取できない状態にある人々がいる。本研究では、途上国の飢餓状態を改善し、農業従事者が一日の食事を確保するための方法として有機農業の検討を行った。その結果、近代農業よりも有機農業を行いその日一日の食糧を確保することが、飢餓改善に有効であると明らかとなった。</p>
11:00	<p><b>平和主義と安全保障～政策決定者の世界観～</b>  <i>岡田理香(総政3年;柴山ゼミ)・和島史奈・相原優哉・山本早紀・酒井陽香・田中理也・田中千帆・今野雄介・下田悦子</i></p> <p>平和主義と安全保障－政策決定者の世界観－          平成27年9月30日、一部で戦争法とも呼ばれている平和安全法、いわゆる安保法案が決定された。日本にとって大きな転換点をむかえ、改めて平和主義とはいかなるものかを考える必要性が出てきた。同時に、政策決定の立場にいる方々は、ただしい認識と理解のもとこのような意思決定を行っているのか、ということに疑問を持った。そこで今回は様々な政治団体や、党の議員の方にインタビューを申し込み、安全保障についてのアンケートを行う。その結果から、正しい政策が行われているかを読み取り、日本の進むべき姿を考察することを目的とする。</p>
11:30	<p><b>ミャンマーの政治家による汚職をなくすためには～ミャンマーへの企業進出から見る可能性～</b>  <i>横山菜乃(千里国際高3年)</i></p> <p>近年ミャンマーの政治家による他国援助資金横領を原因とする、市民への支援の行き届かないことが問題となっている。その解決策として、海外企業がミャンマーへ進出し、市民を充実した仕事に雇用すれば、横領に左右されることなく市民が十分生活費を得られるという仮説を立てた。その実現可能性と障壁を分析し、改善策を提案した。結果ミャンマーは企業進出のポテンシャルを有しているにも関わらず、環境・文化的な障壁があることがわかった。そこでインフラ整備や企業進出側のミャンマーの文化的な理解、ビジネス教育などで問題点を改善すべきと結論づけた。</p>
12:00	<p><b>The motivation of native-speaking English teachers at Osaka English Village</b>  <i>長橋千秋(総政3年; Sawyerゼミ)</i></p> <p>My presentation will discuss what motivates teachers. I will focus on teachers who are native English speakers in Osaka English Village. Osaka English village is a facility trying to attract Japanese people to learn English through fun activities involving authentic interaction with teachers from English-speaking cultures. I will present why they are working there and their reactions to the job. Also, my presentation includes their plans for the future. I hope to give the audience an idea of what motivates teachers to teach effectively.</p>
12:30	<p><b>Soap de hope? ～ソルトパヤタスに石鹸を～</b>  <i>小瀧志織(神戸市立葺合高2年)・打田美穂</i></p> <p>今春、私たちはフィリピンのパヤタス地区へフィールドワークに訪れ、ゴミ山の大きさや過酷な状況下で働く人々の生活に衝撃を受けた。そこでの聞き取りによると、現地の人々は経済面から、安全で効果的な石鹸を手に入れることができないため、アレルギーなどの人体に悪影響を及ぼす可能性のある石鹸を使用しているらしい。そこで私たちはその状況を改善するため、実際に安価で安全かつ効果的な石鹸を作ることとした。今回のプレゼンテーションでは、手作り石鹸のメリット、デメリットを踏まえ、具体的にどのように普及させていくのかを高校生の立場から提言する。</p>

## 第2日(11月19日[土])口頭発表E会場(Ⅱ号館204教室)

10:00	<p><b>空き家の予防策とは</b></p> <p style="text-align: right;"><i>吉本莉緒(総政3年・清水ゼミ)・荒川恵里奈・石田明穂・宮本順加</i></p> <p>近年、空き家について様々な問題が議論されている。空き家を放置しておく、犯罪率や放火率の増加など多くの問題が発生する。現在、各地の自治体や民間団体が様々な対策が取り組まれているものの、空き家率は増加の一途をたどっている。私たちは現在、空き家の「なぜ空き家になってしまったのか」という原因を調査し、そこから空き家の予防策を考えている。そこで丹波市柏原町を例として取り上げ、実際にある空き家の予防策について考えることにした。私たちの研究が未来の空き家率の低下につながるように空き家の予防策を考えていきたい。</p>
10:30	<p><b>みんなが集う商店街～御影旨水館の生き残り策～</b></p> <p style="text-align: right;"><i>伊藤綾美(御影高2年)・井上明茅季・廣瀬瑠華・星野朱音</i></p> <p>私たちは普段、登下校の際、高校の最寄駅である阪神御影駅の高架下にある商店街「旨水館」を通ります。その隣には2008年に開業した大型店舗「御影クラッセ」があるので、「旨水館は客をとられて衰退していくのではないか」と考えました。すると「旨水館」には大型スーパーなどにはない魅力があり、商店街自体のあり方も変化していることに気づきました。そこで私たちは、「旨水館」がこれからも魅力ある場として発展していくために考えたことを発表します。</p>
11:00	<p><b>郊外における駅前の拠点化の可能性と方向性 ～神戸電鉄粟生線(鈴蘭台駅～三木駅間)の各駅を対象として～</b></p> <p style="text-align: right;"><i>青木嵩(総政M1)</i></p> <p>日本は、2008年を境に人口減少社会へと突入した。しかしながら郊外住宅地においては、それ以前から少子高齢化が進み、都市のコンパクト化が議論されている。また高齢化や世帯構成の変化に伴い、車離れや公共交通への依存度が再度高まることが考えられる。それに対し本研究では、それら郊外住宅地の再生と縮小に向けて、駅周辺の生活拠点化が重要であるとする。そのため、郊外住宅地における鉄道沿線を対象に、各駅の1)立地特性、2)関連トリップ特性から分類化し、各駅における可能性と方向性をまとめた。</p>
11:30	<p><b>Music Therapy</b></p> <p style="text-align: right;"><i>前川千咲葵(神戸市立葺台高1年)・藤本朋花・吉川ほのか・國弘千萌</i></p> <p>現在日本だけでなく、世界はストレス社会である。過労や人間関係の悩みを始め、様々なことが原因で多くの方がストレスを抱えている。そしてストレスを軽減するため、抗うつ剤や精神安定剤を服用する人も珍しくない。しかしこのような薬は強い副作用を伴ったり、依存症を引き起こしたりすることがある。私たちはこのような現状を変えるため、薬の服用以外に何かストレスを少しでも軽減できる方法がないか考えたところ、音楽療法というものに注目した。</p>
12:00	<p><b>兵庫区における妊産婦を対象とした虫歯予防啓発の提言</b></p> <p style="text-align: right;"><i>鳴美天斗(兵庫高1年)・榎本大矩・佐藤紅音・松井音明</i></p> <p>神戸市兵庫区は、市内で最も幼児の虫歯有病率が高い。その主な原因として、親の生活習慣が挙げられる。幼児の虫歯減少のために、子供の歯科衛生にもっとも影響力をもつ妊産婦を対象とした虫歯啓発を行う。普段の生活習慣や妊産期の特別な食習慣の改善方法を、私たちが記者になって取材・編集を行い、兵庫区全戸に配布されるフリーペーパーを活用し広報する。虫歯という病気は他の病気につながるものであり、健康に生活するために虫歯を予防することは重要なことである。妊産婦を対象とした啓発を兵庫区を原点とし、神戸市全体にも広げていきたいと考える。</p>
12:30	<p><b>日本の環境モデル都市政策に関する考察</b></p> <p style="text-align: right;"><i>葛亮亮(総政M2)</i></p> <p>日本の環境モデル都市政策は2008年に第169回国会において行われた福田康夫内閣総理大臣の施政方針演説を受けて、同年1月29日の地域活性化統合本部会合で了承された「都市と暮らしの発展プラン」中で、具体的取り組みとして挙げられたものである。環境モデル都市とは、低炭素社会の実現に向け高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジしている都市である。平成20年度13都市、平成24年度7都市、平成25年度に3都市が選ばれた。今回の発表はいくつかの環境モデル都市を事例として紹介して、日本の環境モデル都市の特徴と課題について考察して、最後に日本の先進的な取り組みが中国の環境モデル都市建設に対して示唆するものを考察する。</p>

総合政策学部卒業生同窓会企画 「アポなしOBOG訪問企画」 11/19 SAT

@アカデミックコモンズ1F

総合政策学部 同窓会は毎年リサーチフェアにて、卒業生と在学生の交流イベントを開催。  
 今年もたくさんの卒業生がボランティアとして三田に集います。  
 在学生の皆さんは、座談会形式で気軽にOBOG訪問ができるチャンスです！  
 社会人としての経験、就職後に訪れた仕事上・生活上のハードル、それらをどのように乗り越えてきたか、就活で苦労した事など、様々なご質問にお答えします。  
 貴重なこの機会に、是非皆様でご参加ください。

開催場所	開催日時
アカデミックコモンズ 1F (バスロータリー、体育館横)	11月19日(土) 13:00～15:20 (計3回)  第1回目 13:00～13:40 第2回目 13:50～14:30 第3回目 14:40～15:20

会場案内：開催ブース名紹介



各ブースの参加企業／団体／所属一覧

1: マスコミのお仕事	→→→→→	■■新聞社
2: 私が起業した理由	→→→→→	特定非営利活動法人■■■
3: 学校の先生	→→→→→	■■府内の私立中学高校数学科教諭、■■県公立中学校英語科教諭、■■県公立高校教諭
4: メーカーのお仕事	→→→→→	■■工業(株)
5: 就活しゃべり場	→→→→→	有限責任監査法人■■■、■■(株)
6: 社会人1～3年目までのお仕事	→→→→→	■■システム技研株式会社
7: 会社だけに頼らない生き方	→→→→→	自営業
8: 建築事務所のお仕事	→→→→→	(株)■■■設計室
9: 国際協力のお仕事	→→→→→	■■(株)
10: フリーランスという働き方	→→→→→	■■
11: 地方公務員のお仕事	→→→→→	■■県庁
12: 女性のライフ&ワーク	→→→→→	(株)■■■、管理栄養士
13: インターネット企業の営業・企画のお仕事	→→→→→	■■
14: 庭師～総政的建築デザイン	→→→→→	庭師■■■
15: 「好き」を仕事にする	→→→→→	(株)■■■

## 会場 アクティブラーニングゾーン(1F、グリーンゾーン)

ブース名	チューター名 卒業年・ゼミ 所属 職種	学生時代から現在までの経歴	現役学生の皆さんへのメッセージ
マスコミのお仕事	■■■■■ 2005年・鎌田ゼミ ■■■新聞社 記者	1年間の米国留学後、鎌田ゼミ入りし、哲学に人生を重ね打ち込みました。05年に入社後、横浜支局5年、東京社会部3年、現在は大阪社会部4年目。事件・事故と災害が私のフィールドです。今は大阪府警で汚職などの知能犯と暴力団を担当しています。事件記者に向いていないと思いつながら、結局ここまでほとんど事件をやっています。	記者職に少しでも興味がある人、気軽に来て頂ければ嬉しいです。これまでの取材経験のほか、業界の内情についてもある程度、お話できると思います。学生時代には、たくさん本を読んでください。やりたい事、やるべき事を真剣に考えて、それを一生懸命やってください。
私が起業した理由	■■■■■ 1999年・渡部ゼミ NPO ■■■■■ 代表理事	大学在学中に、ボランティアサークルSSVの活動を通して障害者支援に興味を持つ。大学院在学中にNPO法人設立。「福祉の問題はまちづくりにあり」という考えの下で、ビジネス手法を用いて地域課題の解決を目指す。現在、10本以上の事業を展開し、スタッフ数は80名を超える。具体的な事業は、訪問介護事業、デイサービス事業、短期入所事業、職業訓練事業(農業事業・食品加工事業)、就労支援事業、相談支援事業、家庭教師事業、水泳教室事業、不動産管理事業など。	「起業したい」、または「世の中を変えたい」という思いを持っている学生に、実際の起業体験をふまえて、「実業家(起業家)という職業とは?」「世の中を変える手法とは?」というような話をさせていただきます。学生の間には、社会で起こっていることに関心を持ち、自分なりの関わり方を模索してほしいと思います。
学校の先生	■■■■■ 2000年・中條ゼミ ■■■府内の私立中学 高校数学科教諭	大学3年生のとき、教育業界を中心に就職活動をし、数学の塾講師として内定を得る。並行して教職の授業を履修する中で徐々に教員になりたいという希望を持つようになり教員免許状の取得を始める。ところが総合政策学部では数学科の免許が取得できず、大学院へ進学。就職がきまると同時に数学科の教員免許状が取得でき、現在教員15年目になります。	(1) 現在教職を目指している人、教員になって大丈夫か不安な人、または教職を取ろうかどうかその事に迷っている人等、教職に関する事に関心がある人なら誰でも。また教育業界への就職を考えている人も歓迎します。 (2) 実際の教員の仕事あれこれ。 (3) 色々な事を数多く経験すること。教員志望者に言えることは自分なろうとしている教科の勉強。
	■■■■■ 2010年・李ゼミ ■■■県公務員 教諭	学部時代はダンスをはじめ課外活動に明け暮れる。就職活動、教育実習を経て、大学院へ進学。オーストラリアにて日本語補助教員を勤めた後に、日本で高校教師となる。	これからの教育に興味のある人。たくさん情報交換しましょう。
ブース担当より一言 「学校の先生」ブースは上記お二人の他、■■■■■さん/■■■県立中学校英語科教諭のご参加を頂き3名の卒業生のブースとなります。			
メーカーのお仕事	■■■■■ 2007年・Midfordゼミ 航空機産業兼防衛 産業関係メーカ 購買部門スタッフ	(1) 2001年入学。English Communication Course等で落ちこぼれ2年留年し、2007年卒業。 (2) 2007年4月、運良く大手メーカに就職し、産業機械の輸出業務担当を約5年。 (3) その後、2012年8月、同企業の航空機部門に異動し、輸入購買担当を約4年。 (4) 2016年1月、同業(航空機産業)他社に転職し、引き続き輸入購買担当し、現在に至る。	(1) どんな人でも。このプロフィールみて面白いと思ってもらえたら。 (2) オンボロ学生(英語落第生)が海外担当になって、さらに、海外駐在目指してるとゆー話。と、現在の防衛産業についてのざっくりした話。 (3) 今やってみたい事を挑戦してください。卒業までに自分自身を確立してください。あと、学業も大切に。(基礎が無きゃ何もできまへんぜ)
就活しゃべり場	■■■■■ 2004年・Greeneゼミ ■■■■■ 人事	<採用担当者の目線、企業の目線、学生の皆さんに伝えたいこと> 学生時代は、海外留学、海外放浪の旅、SCS、卒バ委員会、サークルはGEORDIE等で色々活動しました。そしてゼミはGreeneゼミにて、グループワークで必死に議論合っていました。 新卒で入ったのは■■■■■というITの会社で、セールスと、人事(主に採用)及び事業戦略の仕事約5年し、現職の■■■■■ではこれまで約6年、採用を中心とした人事の仕事に携わっています。社会人として「人」を見る仕事に長く携わっており、経験値、感じる事がたくさんあります。学生の皆さんに伝えたいこと、聞きたいこと、お待ちしています。	「就活のしゃべり場」とは? ~ブース担当者より企画の説明~ このブースでは、就活を予定している大学生を対象にしております。採用担当者である■■■さん、そしてマーケティング担当として現場の事をよく知る■■■さんのお二人を囲み、就活について大学生が気になるテーマについて、人事の目線と、人事以外の現場担当者の目線からお話ししてもらい、参加大学生の皆さんに就活を有利に進めるヒントを得てもらうことを目的としています。 このブースの進行は、社会人OBのお二人と参加大学生の間でテーマについてお互いに意見を話し合ってもらう形式を予定しております。また対話形式ですから就活で気になることがあれば是非お二人にお尋ねしてみてください。
	■■■■■ 1999年・田島ゼミ ■■■■■株式会社 マーケティング	・1999年総政卒業後、2001年神戸大学大学院修了(経済学修士)。 ・2001年 ■■■■に入社。海外部門で事業企画と海外営業を各3年経験。 海外営業では、3年がかりで売上4倍、赤字事業を黒字転換に成功。 ・2007年 ■■■■へ中途入社。現在、半導体製造装置メーカーにて新製品開発の企画担当。	

**会場 アクティブラーニングゾーン(1F、グリーンゾーン)**

<p>社会人 1～3年目 までの お仕事</p>	<p>■■■■■ 2014年・Tijerinoゼミ ■■■■■ 技研株式会社 SE</p>	<p>2008年に大学に入学し、そのまま大学院に進学しました。2015年3月に卒業し現在の会社で働いています。社会人二年目です。今でも年に数回は大学に出社しています。特に三号館と事務室に出社しています。</p>	<p>三年生の皆さんからすればキリスト教学にいた人という印象が強いと思います。他にもレポートの受付や定期試験の試験監督の人という印象があると思います。なので、おそらく皆さんに一番近い立場で話せるのではないかと思います。就職活動の話はもちろん大学生活における話など何でも聞いてください。三年生でなくても今後の学生生活に迷っている二年生や一年生の方も歓迎します。特に二年生の皆さんはこの時期はゼミ選択という大事な時期でどのようにゼミ選択をしたらいいか迷っている人もいると思うので、参考になる話を伝えればと思います。ゼミは大事なので適当に選択すると悲惨な学生生活を送ることになるかも……。ちなみに私は、ティヘリノゼミに入って正解だったと思います。</p>
<p>会社だけに 頼らない 生き方</p>	<p>DSH 2004年・陣内ゼミ 自営業 個人投資家、不動産 オーナー代行、競馬 関係の仕事</p>	<p>履正社高(1998)→法大(2002)→関学大編入(2004)→三重大院(2006) 外資系IT企業(2006.4～2010.3)、日系H電機系列企業(2001.1～2015)、D工業(2015. 2～9)、M電機(2015. 10～2016.6)</p>	<p>1)暇な人、他のブースが満席で時間つぶしの人、その他 2)企業;メーカーで働いた経験&amp;個人投資家としての現況(投資のノウハウなどを話す予定はありません)</p>
<p>建築事務所 のお仕事</p>	<p>■■■■■ 2016年・八木研究室 ■■■■■設計室 建築設計</p>	<p>建築プログラムの第2期生として入学。先輩も少なかったため、自ら学外の建築系イベントやコンペに参加して、日々の設計課題にフィードバックしていきました。その結果、卒業設計展では学内最優秀、全国100選と目指すべきところの最低限を超えることができました。その後、大学院に進学し、教授の指導のもと、より実践的な課題に取り組み、その中でいくつか参加したインターンシップの受け入れ先企業の1つに今就職しています。</p>	<p>(1)将来、建築関係でも、それ以外でも人と関わり合いながら仕事をしたい人、(2)自分の考えを自分の口で語れるようにすることの重要性。これは就活時に、又、社会に出てから最も重要に感じた能力の1つです。失敗談としては、付け焼き刃の言葉では相手に響かなく、建築学生は特にかっこよさを求め、表現力ばかりを磨いてしまうところがあります。もちろん見せ方はデザインをする上で重要な要素の1つではあるが、一歩外に出ればどんぐりの背比べ。それより大事なものは1つの作品(行動)の中にどれだけ自分の考え盛り込めるか、又、それを言葉化できるかが重要です。それができた時は相手の共感を得られ、成功体験にもなります。(3)学生の間に視野をより広く持てるようにすること。これは私自身がもっとやっておけばよかったと思う部分で、建築はあらゆる分野と関係する職種なので、切り口を多く持つっていると提案の幅も広がります。また、視野を広く持てることで今後の自分の人生の道標にもなるのではないかと思います。</p>

**会場 アクティブラーニングゾーン(1F、オレンジゾーン)**

<p>国際協力 のお仕事</p>	<p>■■■■■ 2004年・細見ゼミ ■■■■■(株) 開発コンサルタント</p>	<p>私は総政を卒業してから、UNHCRでインターンをし、アメリカの大学院で勉強しながら、黒人街の小学校、難民支援NGOで働きました。その後日本で、組織コンサル系の企業で働き、転職して開発コンサルタントになり、今はフィリピンの保健医療の仕事やカンボジアで支援ニーズの調査の仕事をしています。</p>	<p>「国際機関、JICA、開発コンサルタント、NGO・・・働き方はどう違うんだろう?」「国際協力の仕事をしたい!でも自分にはまだいろいろ足りない...これからどうして過ごしたらいいのだろう?」そんな国際協力に関心のある方、ぜひブースに来てください。この仕事の楽しいこと、大変なこと、学生のうちにやってみてよかったことなどざっくばらんに話していただきたいと思います。発展途上国に貢献したい、その想いにふたをせず、突破口を考えながら、一緒に「Think globally」と「Act locally」を実践しましょう!</p>
<p>フリーランス という 働き方</p>	<p>■■■■■ 2014年・伊佐田ゼミ ■■■■■ フリーランスクリエイター</p>	<p>大学2年生の時にグラフィックデザインの専門学校へダブルスクールで通い、大学3年生から個人でデザインの仕事を請け始め、大学4年生の時に開業しました。Webサイト制作と印刷物のデザインをメインに、最近はヘアメイクのお仕事やフォトコーラージュアートの制作などもしています。</p>	<p>フリーランスという働き方に興味のある方、ハードル高いなと思ってる方に来てもらえたらと思います。興味あるけどなんか大変そうだな...自分にできるのかな...って思ってる人に、少しでも「なんかこの人ができてるならいいけそう気がする...」と思ってもらえたら嬉しいです(笑)。学生時代は色んな人と出会って一生懸命勉強してください。</p>

**会場 アクティブラーニングゾーン(1F、オレンジゾーン)**

<p><b>地方公務員のお仕事</b></p>	<p>■■■■■ 1999年・片寄ゼミ ■■■■■ 県庁 一般事務職</p>	<p>大学時代はゼミで商店街振興や都市政策を学習。卒業後は、信託銀行において主に不動産部門に所属。5年間勤めた後、Uターン採用で■■■■■県庁に転職。カルチャータウンやフラワータウンの土地の売却に携わったり、いくつかの部署を経験しながら、現在は若者や女性の就業支援や、首都圏から兵庫県に人材を還流させる業務に就いています。</p>	<p>一般的に、公務員は安泰というイメージがありますが、そういったイメージを持ったままではこれからの時代はやっていけません。堅実さは重要ですが、チャレンジ精神をもってください。総合政策の分野は、自治体の政策立案にはきっと役立つと思います。私は、幸運にも民間と行政の両方の経験を持っていますので、両方の良さも交えながらいろいろとお話できればと思います。</p>
<p><b>女性のライフ&amp;ワーク</b></p>	<p>■■■■■ 2002年・福田研究室 ■■■■■ コンサルタント</p>	<p>一期生学部入学 → 3年次に休学、エジプト留学 → 二期生で修士修了。基礎ゼミは鈴木實ゼミ、3年から福田豊生ゼミ所属。長期休暇は常に中東各国へ。学部4年間はひたすら勉強、ひたすら友人たちや教授たちと語り倒す。卒業後約12年間やりたいことを追求し倒した後、(研究職志望 → キャンギャル・モデル → 人事部 → 人事系コンサル → 痛み病みどん底期 → カウンセラー → 介護職員)、人材紹介コンサルタントへ。まだまだ満足できず、密かに次の目標に向かって準備中。</p>	<p>今何に頑張ればいいのか、将来自分は何かができるのだろうか悩み迷っているあなたへ。総政にどっぷり浸かって学んでいけば、たとえ何があっても必ずなんとかなるので、興味あることに挑戦していきましょう！やりたいことをやることの責任と楽しさ、将来の目標の見つけ方、どう生きていくか等、私自身の経験談を交えながらお伝えします。学生時代は勉強して、海外に行つて、たくさん人に出会って、いい言葉に出会って、何事にも恐れず挑戦し続けていました。そんな学生時代があったからこそ、好きなことをやりつつ、社会人としても成長し続けていられるのだと感じます。総政での時間が私の全ての原点です。</p>
	<p>■■■■■ 1999年遠藤ゼミ 京都府立大学生命環境学部食保健学管理栄養士</p>	<p>学生時代は、友達やBFと遊びのんびり過ごしました。DV被害者のサポート活動をする中で、人を支援する仕事につきたいと思い、大学院で社会福祉を学びました。その後、大学で社会福祉士実習の支援、専門学校等で教員を経験しました。在職中に通信の専門学校に通って社会福祉士を取得。退職後数年は、予備校に通い、現在管理栄養士養成の大学に在学し、来年4月から管理栄養士として歯科医院で勤務予定です。在学中に産出し、子どもは3歳です。</p>	<p>将来どうしたら良いか悩んでいる人、一般企業に就職するのが向いていないかもしれないと思う人、子育ても勉強も仕事もしたいと思う人に、人生はまあ何とかかなり、それなりにやりたいことができるのではないかとということ、人との縁を大事にすることが幸せにつながるのではなんて話をしたいと思います。学生時代は、めいっばい好きなことをして、友達と仲良くして、楽しく過ごしたら良いと思います。</p>

**会場 シアター(1F)**

<p><b>インターネット企業の営業・企画のお仕事</b></p>	<p>■■■■■ 2013年・総合政策研究科西本研究室 ■■■■■ 企画</p>	<p>小学生の頃から今まで20年以上ずっと野球をやってきました。学部は商学部で在籍中に、ニューヨーク本部の国連(英語)で研修を受けた後、国家公務員総合職(第1種)取得。外務省には入省せず、大学院に進み、総合政策、国際開発を学びます。卒業後、インターネット事業大手の■■■■■に入社。高校でネット授業や大学生向けインターンシップ企画、運営。London支社立ち上げを成功させ、現在は広告営業マンとして第一線で活躍しています。</p>	<p>今は、ネット広告の営業マンとして活動していますが、将来は国連で勤める予定です。主に、貧困・開発分野で奮闘する予定です。これまでYahoo!JAPAN、国連、大学院、大学にて色んな経験をしてきました。失敗談や成功談を踏まえ、同じ分野に興味のある方はぜひお話をできれば嬉しいです。</p>
<p><b>庭師～総政的建築デザイン</b></p>	<p>■■■■■ 2000年・Greeneゼミ 庭師 ■■■■■ 造園</p>	<p>卒業後造園会社に入社し、造園のプランニング、施工の両方を学ぶ。2006年英国ナショナルトラストWadasdon Manor、2007年スコットランド王立植物園にて勉強し帰国、2010年庭師■■■■■として独立。作庭。</p>	<p>①どなたでもok、②価値観 仕事</p>
<p><b>「好き」を仕事にする</b></p>	<p>■■■■■ 2003年・Rossゼミ(株) ■■■■■ ネットワーク事業局 事業戦略プランナー</p>	<p>総政時代は大学祭実行委員会に所属して365日中333日くらい学祭のことやっていました。内定ゼロだったため、名古屋大学大学院の国際開発研究科に進学。必死に勉強する予定だったが、2年のうちの半年をJICAでインターン生として過ごし、最終的に国際協力とは無縁の広告業界へ就職。そして、ひよんなことからコピーライターになり、ひよんなことからカンヌ広告賞なんかもらい、ひよんなことから会社のお金でMBA留学をすることになり、帰国してからは■■■■■のグローバル化を担う部署で働いております。社会人留学に興味がある方の質問にも少しは答えられると思います 3部構成で考えているので、興味のある回に参加してください。 第1回目 13:00～13:40 電通について 第2回目 13:50～14:30 クリエーティブの仕事について 第3回目 14:40～15:20 フリー・ディスカッション(会社のことや就職のこと何でも)</p>	<p>(1)興味を持って頂けた方なら全員に来て頂きたいです。 (2)聞かれたことには何でも正直に答えます。約束します。 (3)たくさんの大人に会って、こういう大人になりたいという人、こういう大人にはなりたくないという人、を自分なりに定めておくこと、じゃないでしょうか。</p>

# Research Fair 2016 presents

## 授賞式・懇親会

発表形式ごとに最優秀賞受賞者の  
発表・授賞のほか、発表者・参加  
者・同窓会の先輩が楽しく語る場  
です

日時：11月19日（土）16時より  
第三厚生棟にて



## 卒業記念パーティー実行委員 募集中！！

4年間、三田で過ごしたのに、  
卒業式は上ヶ原！

そんなの寂しくありませんか。  
その寂しさを解消するのが・・・



**阪急宝塚ホテルで卒業式後行われる  
総合政策学部による総合政策学部だけの卒業記念パーティー！！**

卒業記念パーティーを一緒に作りあげていきませんか。  
パーティーの司会・進行、会場の手続き、  
パーティー中のゲーム企画など、  
全て自分たちで行います。

自分たちで企画するからこそその感動！  
自分たちで企画するからこそそのやりがい！

そんな「感動」と「やりがい」  
を分かち合えるサークルです。

メンバー同士も仲が良く  
楽しく、頑張っています。



**活動は主に春期休暇中となります！  
イベントの企画に興味がある方、少しでも気になる方  
質問があれば下記連絡先までお願いします。**

sotsupa2017.sps@gmail.com  
(担当:佐久間(総-3))

☆**本年度も、3月18日(土)の上ヶ原での卒業式後、総合政策学部  
卒業記念パーティーが計画されています。  
卒業予定者の方は、是非、ご参加下さい。**

2016年11月9日(水)発行  
関西学院大学総合政策学部  
リサーチ・フェア実行委員会